

小規模企業景気動向調査 [2024年9月期調査]

～産業全体の全DIが改善も、消費低迷・コスト高により停滞感が継続している小規模企業景況～

＜産業全体＞

9月期の産業全体の景況は、売上額DIが小幅に上昇した。インバウンドおよび国内需要の回復の影響を受けたサービス業、公共工事を中心に需要が堅調な建設業がけん引したことが、前月比でマイナスのDIがなかった主要因としてあげられる。一方で、全産業において、あらゆるコスト高による停滞感について言及するコメントが継続して多くあり、改善傾向にあるとは言えない状況である。

	DI	8月	9月	前月比
売上額		25	47	22
採算	▲	16.1	▲15.6	0.5
資金繰り	▲	12.6	▲12.2	0.4
業況	▲	11.0	▲10.5	0.5

＜製造業(食料品、繊維、機械・金属)＞コスト高等が継続する中、業種によって業況が分かれる製造業

製造業は、売上額DIが小幅に上昇し、業況DIはわずかに低下した。

食料品・繊維関連は、売上額DIが上昇した。要因として、観光業の好影響を受けたことがあげられる。機械・金属関連は、売上額・採算・業況DIが低下した。厳しい経営状況から、設備投資を控える傾向に関するコメントがある反面、高度な設備を設置している事業者の売り上げが増加傾向にあるとのコメントもあり、難しい局面であることが窺える。

	DI	8月	9月	前月比
売上額		16	36	20
採算	▲	18.8	▲18.7	0.1
資金繰り	▲	13.9	▲14.0	▲0.1
業況	▲	13.5	▲14.2	▲0.7

＜建設業＞改善傾向から、価格転嫁等の前向きな取り組みを進めていきたい建設業

建設業は、売上額DIが大幅に上昇し、採算・資金繰り・業況DIは小幅に上昇した。

公共工事を中心に需要が堅調であるとのコメントが多かったが、民間工事については減少傾向であるとのコメントも継続して多く、公共工事の受注状況によって事業者の業況が二極化している。前月と比較して、価格転嫁を徐々に進められているとのコメントが増えており、人手不足等の長期的な課題が継続しているものの、前向きな傾向が一部見られた。

	DI	8月	9月	前月比
売上額		50	113	63
採算	▲	14.3	▲11.4	29
資金繰り	▲	13.8	▲11.4	24
業況	▲	9.7	▲7.2	25

＜小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)＞継続する物価高による消費低迷の影響が強い小売業

小売業は、売上額DIがわずかに低下した。

食料品関連は、売上額DIは増加したが、採算DIは低下した。観光やイベントの回復基調の影響を受けつつも、引き続き価格転嫁に苦慮している状況である。衣料品関連は、横ばい傾向が最も強かった。夏の長い猛暑が複数年続いていることから、仕入れ商品の見直しが重要となっている。耐久消費財関連は、業況DIが低下した。エアコン等の季節物需要の落ち着きから、今後、節約志向の影響を受けることが懸念される。

	DI	8月	9月	前月比
売上額	▲	1.6	▲2.5	▲0.9
採算	▲	20.3	▲20.4	▲0.1
資金繰り	▲	15.8	▲15.6	0.2
業況	▲	16.7	▲17.1	▲0.4

＜サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)＞好調な売り上げを価格転嫁に繋げたいサービス業

サービス業は、売上額・業況DIがわずかに上昇し、採算・資金繰りDIはわずかに低下した。

旅館関連は、売上額・業況DIが上昇した。昨年のシルバーウィークと比較して客数が増加したとのコメントが多かった。クリーニング関連は、全DIが低下した。消費者の嗜好の変化から個人客の需要は低下傾向だが、事業者向けの需要は堅調である。理・美容関連は、全DIが上昇し、他店との差別化を図ることができた事業者の価格転嫁が徐々に進んでいる状況である。

	DI	8月	9月	前月比
売上額		50	65	15
採算	▲	11.0	▲12.0	▲1.0
資金繰り	▲	7.0	▲7.7	▲0.7
業況	▲	4.3	▲3.3	1.0

調査概要

・調査対象：全国303商工会の経営指導員(有効回答数：234/回答率77.3%)

・調査時点：2024年9月末

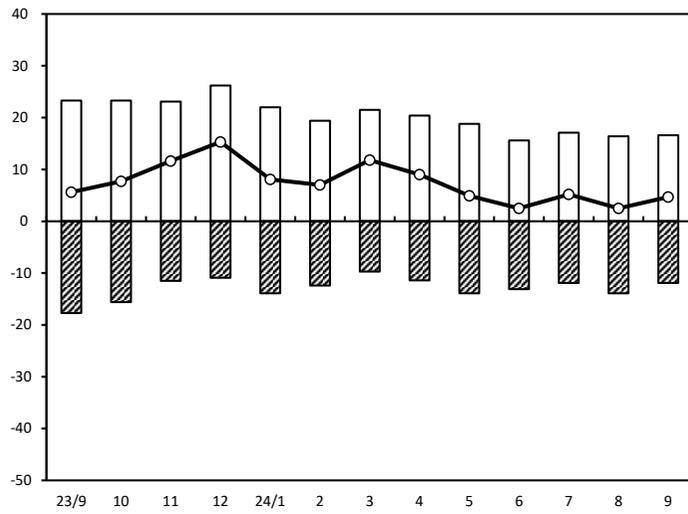
・調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査(2024年9月期)

産業全体(前年同月比)

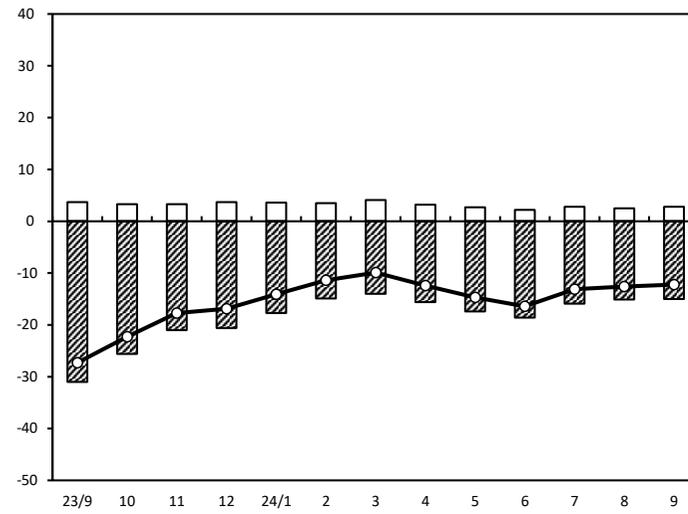
売上額



年/月	増加	減少	DI
23/9	23.3	-17.7	5.6
10	23.3	-15.6	7.7
11	23.1	-11.5	11.6
12	26.2	-10.9	15.3
24/1	22.0	-13.9	8.1
2	19.4	-12.4	7.0
3	21.5	-9.7	11.8
4	20.4	-11.4	9.0
5	18.8	-13.9	4.9
6	15.6	-13.1	2.5
7	17.1	-11.9	5.2
8	16.4	-13.9	2.5
9	16.6	-11.9	4.7

(年月)

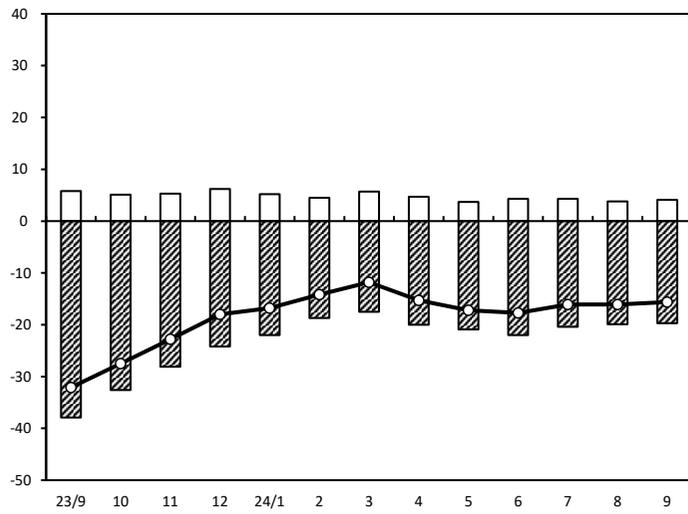
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
23/9	3.7	-31.0	-27.3
10	3.3	-25.6	-22.3
11	3.3	-21.0	-17.7
12	3.7	-20.6	-16.9
24/1	3.6	-17.7	-14.1
2	3.5	-14.9	-11.4
3	4.1	-14.0	-9.9
4	3.2	-15.6	-12.4
5	2.7	-17.4	-14.7
6	2.2	-18.6	-16.4
7	2.8	-15.9	-13.1
8	2.5	-15.1	-12.6
9	2.8	-15.0	-12.2

(年月)

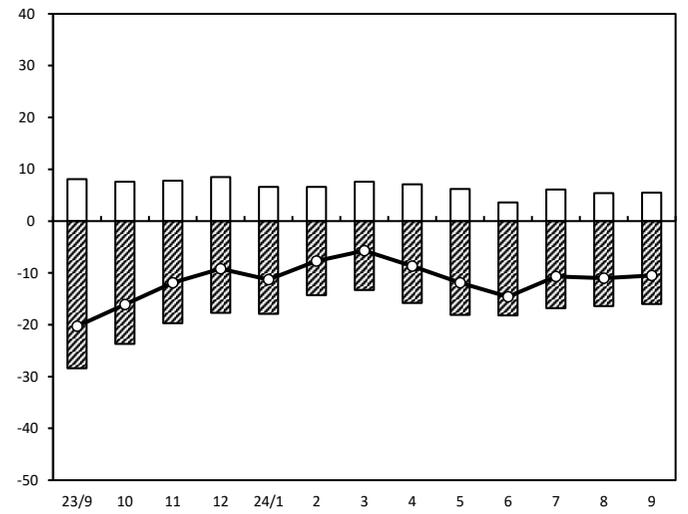
採算



年/月	増加	減少	DI
23/9	5.8	-37.9	-32.1
10	5.1	-32.6	-27.5
11	5.3	-28.1	-22.8
12	6.2	-24.2	-18.0
24/1	5.2	-22.0	-16.8
2	4.5	-18.7	-14.2
3	5.7	-17.5	-11.8
4	4.7	-20.0	-15.3
5	3.7	-20.9	-17.2
6	4.3	-22.0	-17.7
7	4.3	-20.4	-16.1
8	3.8	-19.9	-16.1
9	4.1	-19.7	-15.6

(年月)

業界の業況

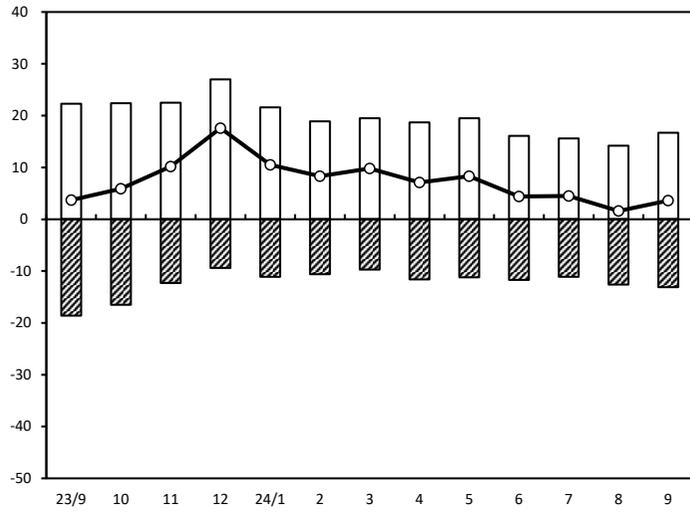


年/月	増加	減少	DI
23/9	8.1	-28.4	-20.3
10	7.6	-23.7	-16.1
11	7.8	-19.7	-11.9
12	8.5	-17.7	-9.2
24/1	6.6	-17.9	-11.3
2	6.6	-14.3	-7.7
3	7.6	-13.3	-5.7
4	7.1	-15.8	-8.7
5	6.2	-18.1	-11.9
6	3.6	-18.2	-14.6
7	6.1	-16.8	-10.7
8	5.4	-16.4	-11.0
9	5.5	-16.0	-10.5

(年月)

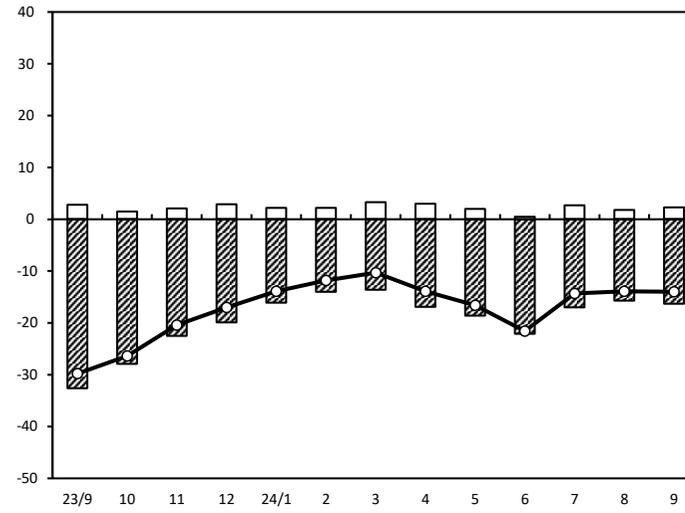
製 造 業(前年同月比)

売上額



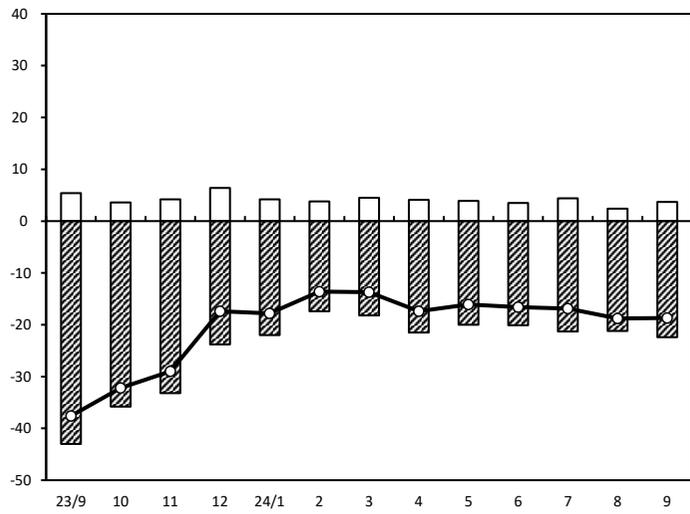
(年月)

資金繰り



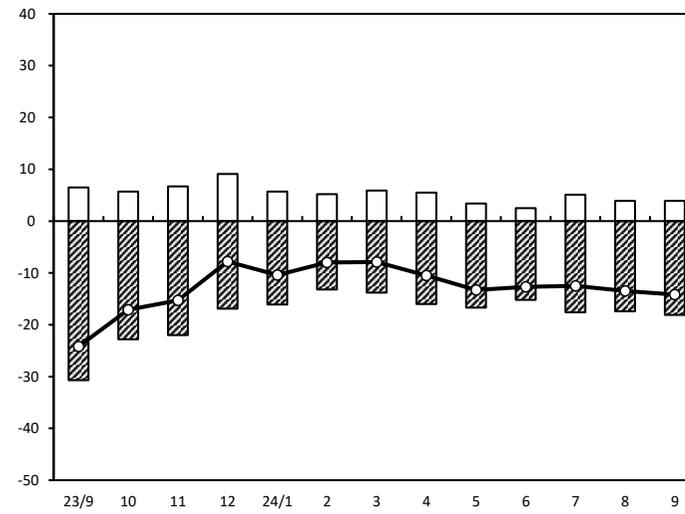
(年月)

採算



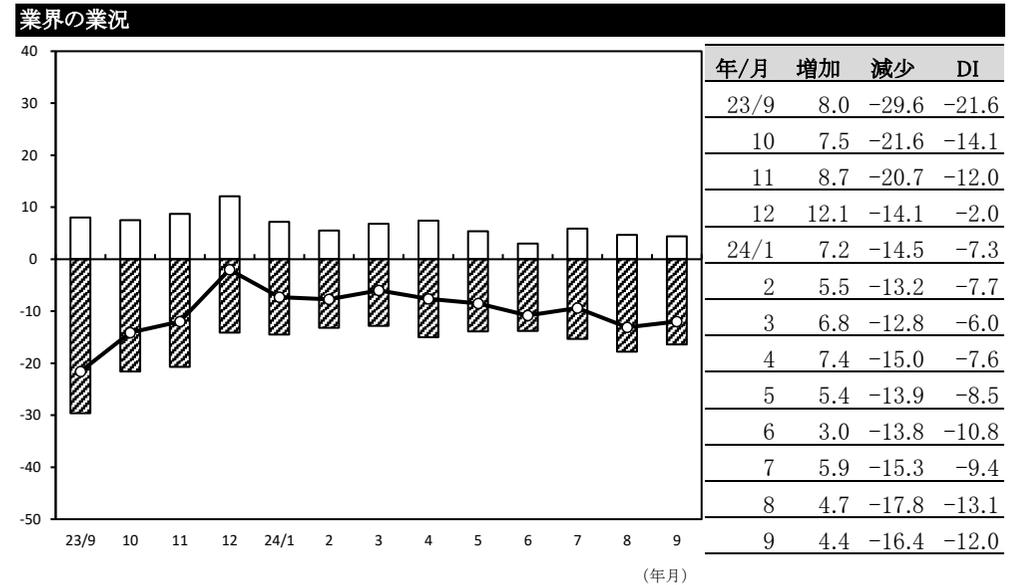
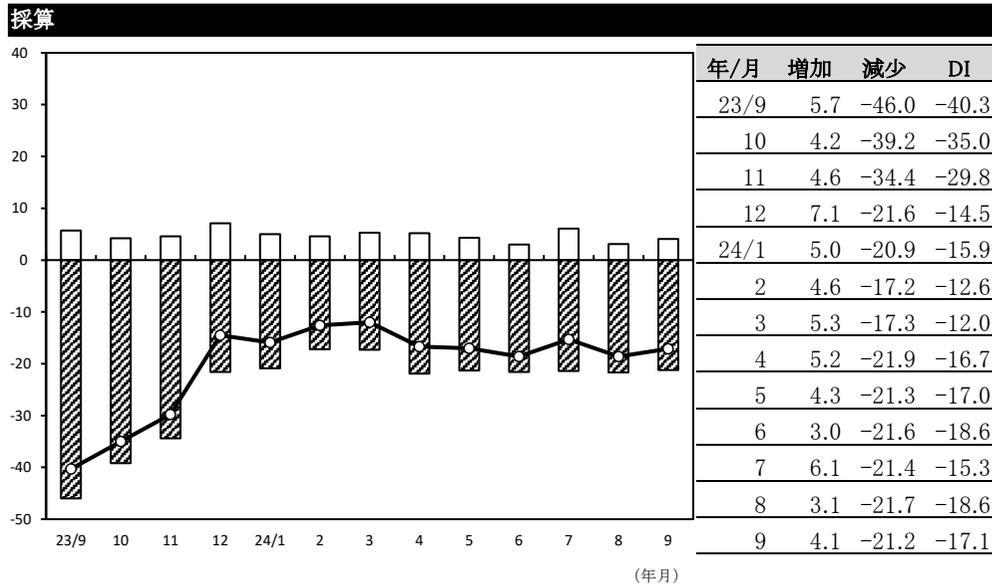
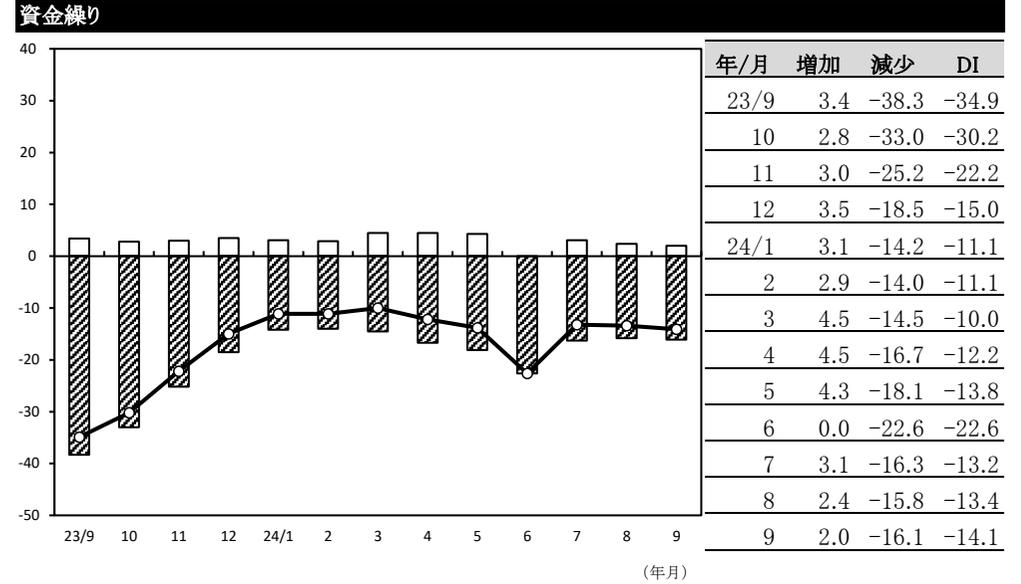
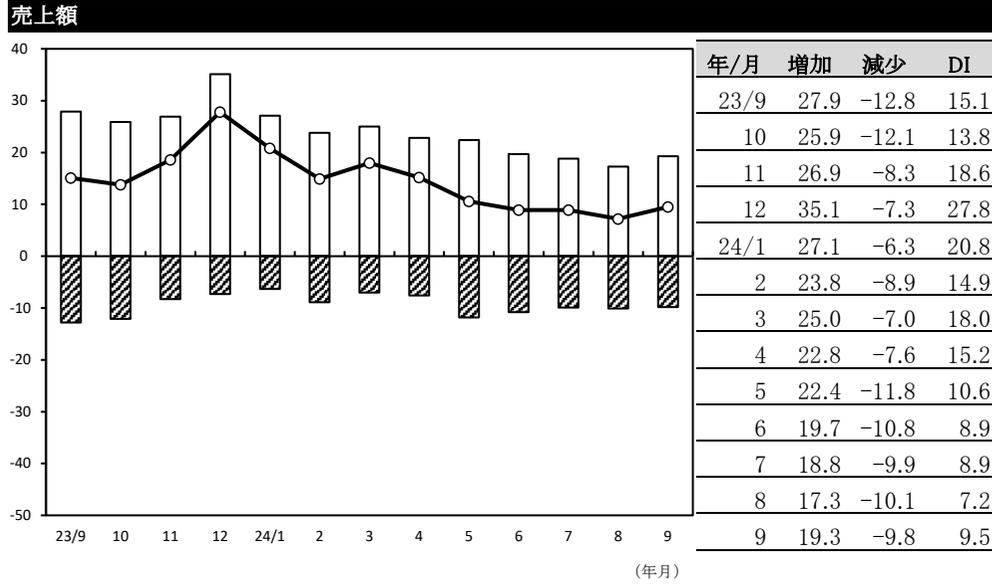
(年月)

業界の業況



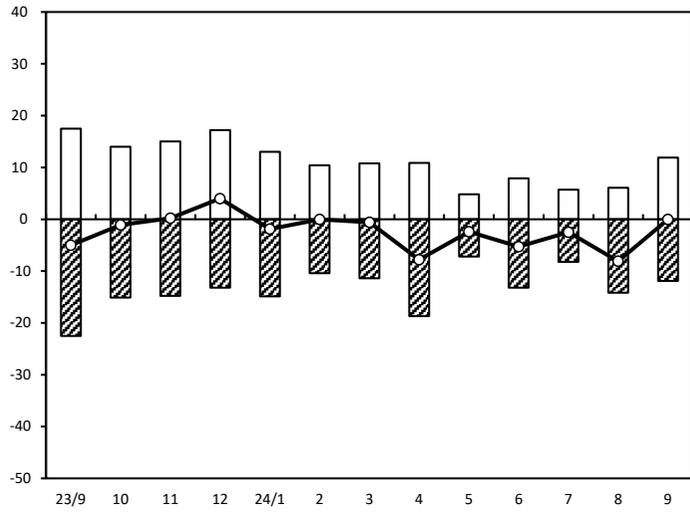
(年月)

製 造 業 【食料品】（前年同月比）



製造業【繊維】（前年同月比）

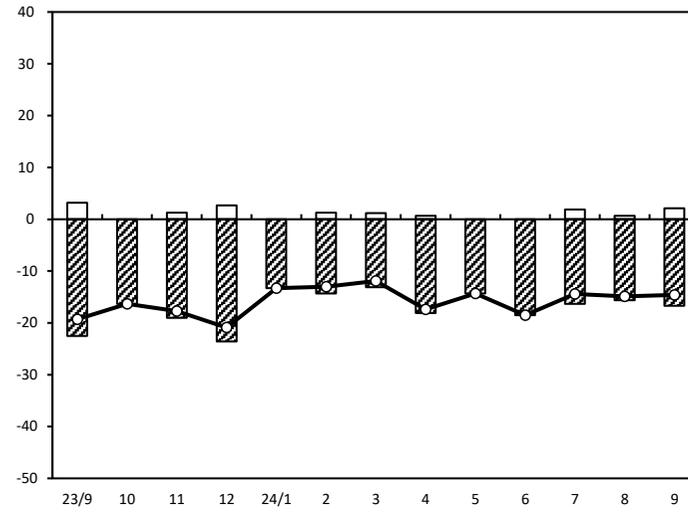
売上額



年/月	増加	減少	DI
23/9	17.5	-22.5	-5.0
10	14.0	-15.1	-1.1
11	15.0	-14.8	0.2
12	17.2	-13.2	4.0
24/1	13.0	-14.9	-1.9
2	10.4	-10.4	0.0
3	10.8	-11.4	-0.6
4	10.9	-18.7	-7.8
5	4.8	-7.2	-2.4
6	7.9	-13.2	-5.3
7	5.7	-8.2	-2.5
8	6.1	-14.2	-8.1
9	11.9	-11.9	0.0

(年月)

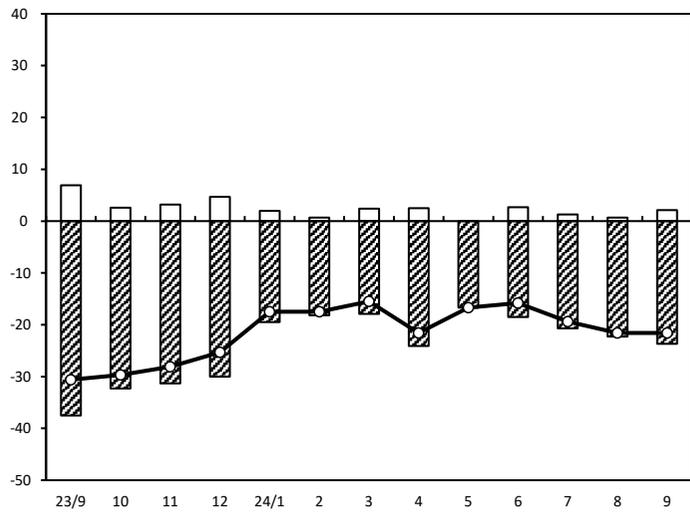
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
23/9	3.2	-22.5	-19.3
10	0.0	-16.3	-16.3
11	1.3	-19.0	-17.7
12	2.7	-23.6	-20.9
24/1	0.0	-13.3	-13.3
2	1.3	-14.3	-13.0
3	1.2	-13.1	-11.9
4	0.7	-18.1	-17.4
5	0.0	-14.3	-14.3
6	0.0	-18.5	-18.5
7	1.9	-16.3	-14.4
8	0.7	-15.6	-14.9
9	2.1	-16.7	-14.6

(年月)

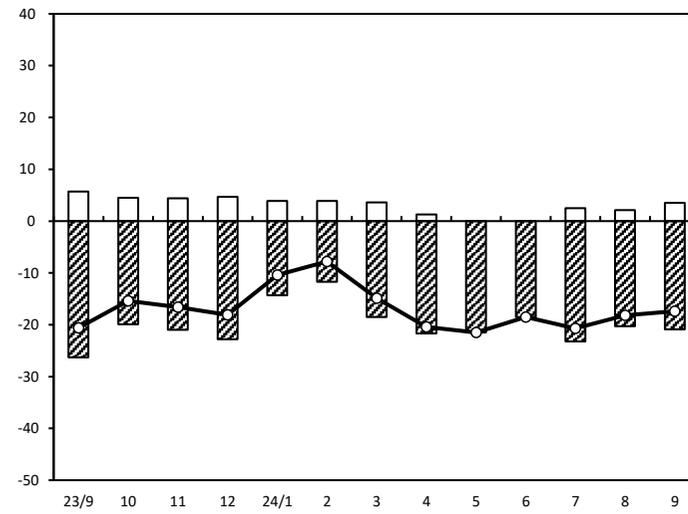
採算



年/月	増加	減少	DI
23/9	6.9	-37.5	-30.6
10	2.6	-32.3	-29.7
11	3.2	-31.3	-28.1
12	4.7	-30.0	-25.3
24/1	2.0	-19.5	-17.5
2	0.7	-18.2	-17.5
3	2.4	-17.9	-15.5
4	2.5	-24.1	-21.6
5	0.0	-16.7	-16.7
6	2.7	-18.5	-15.8
7	1.3	-20.7	-19.4
8	0.7	-22.3	-21.6
9	2.1	-23.7	-21.6

(年月)

業界の業況

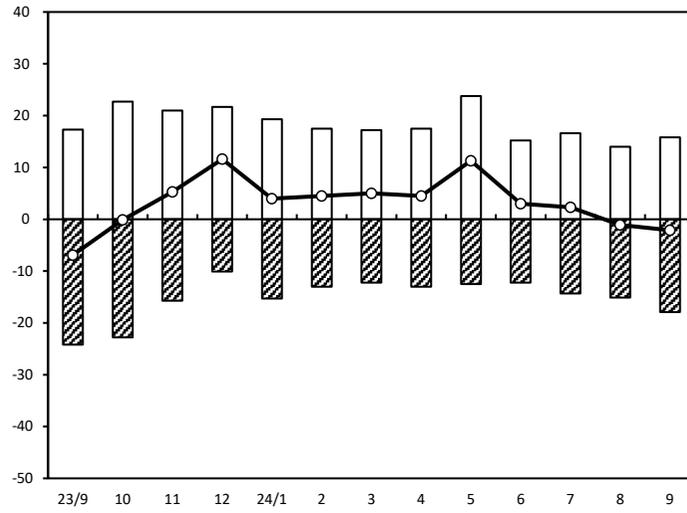


年/月	増加	減少	DI
23/9	5.7	-26.3	-20.6
10	4.5	-19.9	-15.4
11	4.4	-21.0	-16.6
12	4.7	-22.8	-18.1
24/1	3.9	-14.3	-10.4
2	3.9	-11.7	-7.8
3	3.6	-18.5	-14.9
4	1.3	-21.7	-20.4
5	0.0	-21.5	-21.5
6	0.0	-18.5	-18.5
7	2.5	-23.2	-20.7
8	2.1	-20.3	-18.2
9	3.5	-20.9	-17.4

(年月)

製 造 業【機械・金属】（前年同月比）

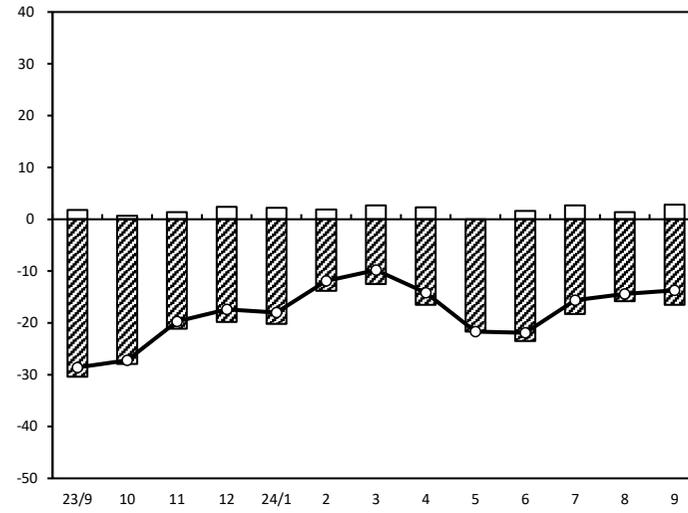
売上額



年/月	増加	減少	DI
23/9	17.3	-24.2	-6.9
10	22.7	-22.8	-0.1
11	21.0	-15.7	5.3
12	21.7	-10.1	11.6
24/1	19.3	-15.3	4.0
2	17.5	-13.0	4.5
3	17.2	-12.2	5.0
4	17.5	-13.0	4.5
5	23.8	-12.5	11.3
6	15.2	-12.2	3.0
7	16.6	-14.3	2.3
8	14.0	-15.1	-1.1
9	15.8	-17.9	-2.1

(年月)

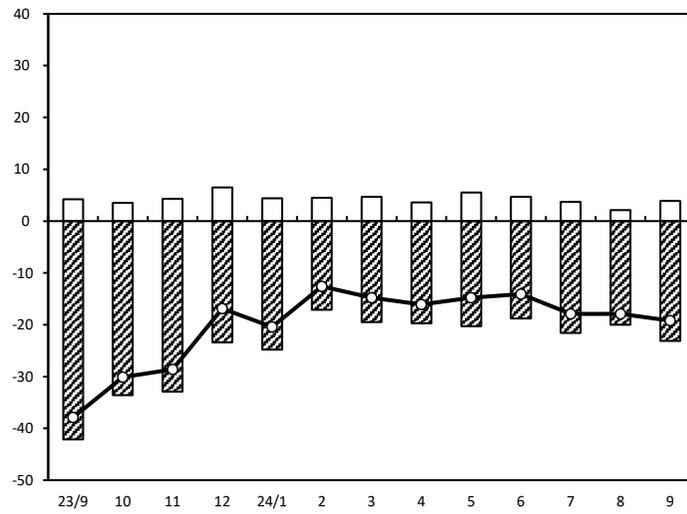
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
23/9	1.8	-30.4	-28.6
10	0.7	-27.9	-27.2
11	1.4	-21.1	-19.7
12	2.4	-19.8	-17.4
24/1	2.2	-20.2	-18.0
2	1.9	-13.8	-11.9
3	2.7	-12.5	-9.8
4	2.3	-16.5	-14.2
5	0.0	-21.7	-21.7
6	1.6	-23.5	-21.9
7	2.7	-18.3	-15.6
8	1.4	-15.8	-14.4
9	2.8	-16.5	-13.7

(年月)

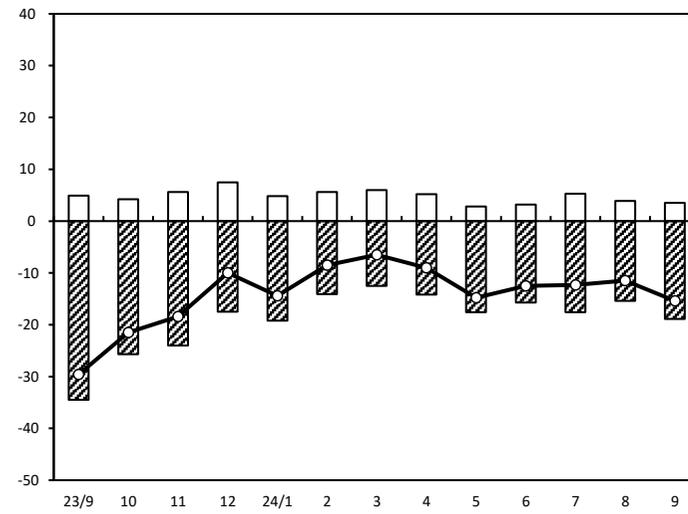
採算



年/月	増加	減少	DI
23/9	4.2	-42.1	-37.9
10	3.5	-33.6	-30.1
11	4.3	-32.9	-28.6
12	6.5	-23.4	-16.9
24/1	4.4	-24.8	-20.4
2	4.5	-17.1	-12.6
3	4.7	-19.5	-14.8
4	3.6	-19.7	-16.1
5	5.5	-20.3	-14.8
6	4.7	-18.8	-14.1
7	3.7	-21.6	-17.9
8	2.1	-20.0	-17.9
9	3.9	-23.1	-19.2

(年月)

業界の業況

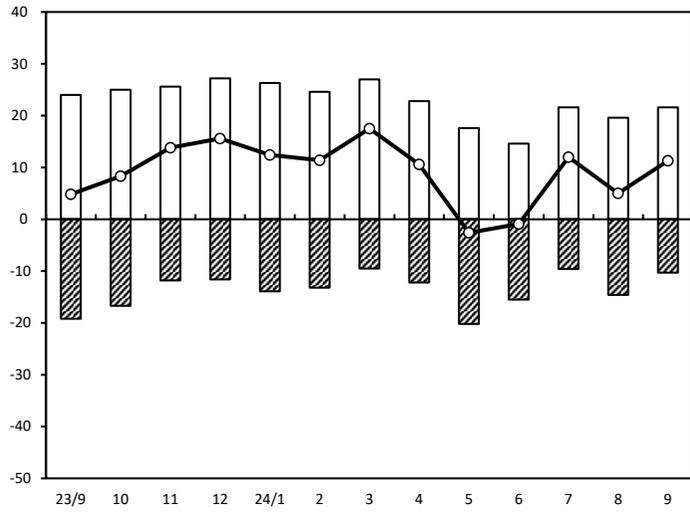


年/月	増加	減少	DI
23/9	4.9	-34.5	-29.6
10	4.2	-25.7	-21.5
11	5.6	-24.0	-18.4
12	7.5	-17.5	-10.0
24/1	4.8	-19.2	-14.4
2	5.6	-14.1	-8.5
3	6.0	-12.5	-6.5
4	5.2	-14.2	-9.0
5	2.8	-17.6	-14.8
6	3.2	-15.7	-12.5
7	5.3	-17.6	-12.3
8	3.9	-15.4	-11.5
9	3.5	-18.9	-15.4

(年月)

建設業(前年同月比)

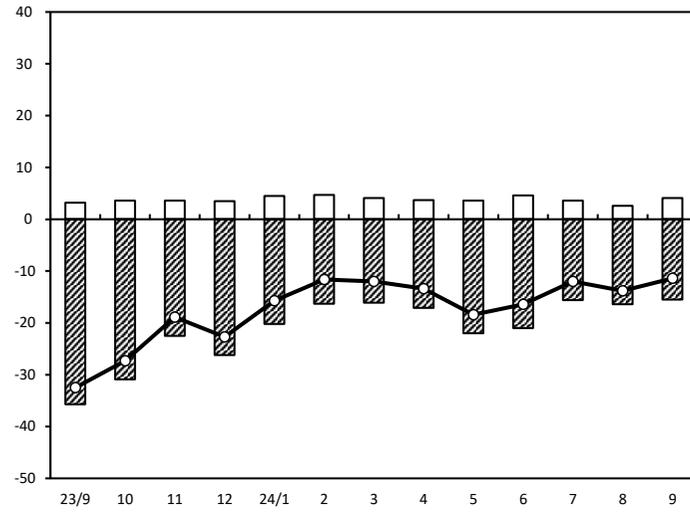
売上額



年/月	増加	減少	DI
23/9	24.0	-19.2	4.8
10	25.0	-16.7	8.3
11	25.6	-11.8	13.8
12	27.2	-11.6	15.6
24/1	26.3	-13.9	12.4
2	24.6	-13.2	11.4
3	27.0	-9.5	17.5
4	22.8	-12.2	10.6
5	17.6	-20.2	-2.6
6	14.6	-15.5	-0.9
7	21.6	-9.6	12.0
8	19.6	-14.6	5.0
9	21.6	-10.3	11.3

(年月)

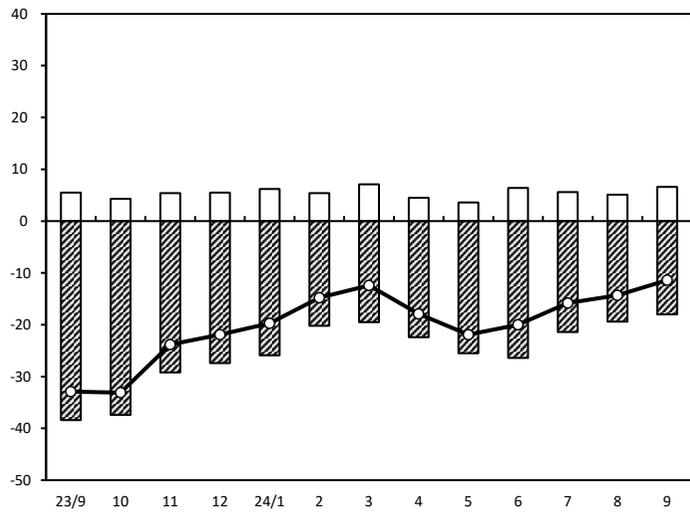
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
23/9	3.2	-35.7	-32.5
10	3.6	-30.9	-27.3
11	3.6	-22.5	-18.9
12	3.5	-26.2	-22.7
24/1	4.5	-20.2	-15.7
2	4.7	-16.3	-11.6
3	4.1	-16.1	-12.0
4	3.7	-17.1	-13.4
5	3.6	-22.0	-18.4
6	4.6	-21.0	-16.4
7	3.6	-15.6	-12.0
8	2.6	-16.4	-13.8
9	4.1	-15.5	-11.4

(年月)

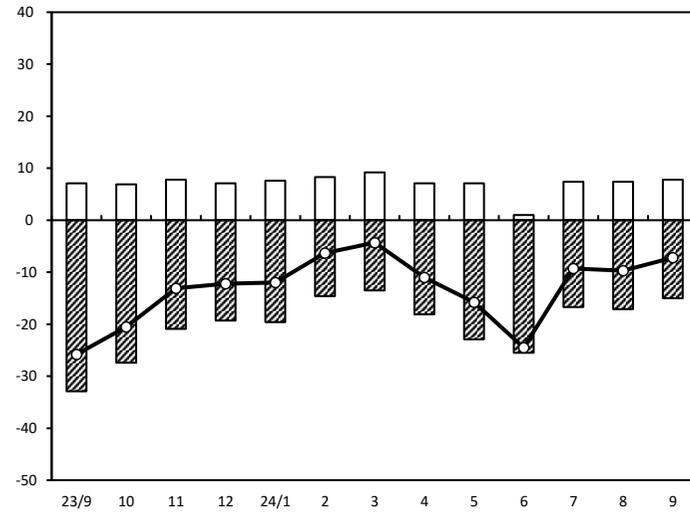
採算



年/月	増加	減少	DI
23/9	5.5	-38.4	-32.9
10	4.3	-37.4	-33.1
11	5.4	-29.2	-23.8
12	5.5	-27.4	-21.9
24/1	6.2	-25.9	-19.7
2	5.4	-20.2	-14.8
3	7.1	-19.5	-12.4
4	4.5	-22.4	-17.9
5	3.6	-25.5	-21.9
6	6.4	-26.4	-20.0
7	5.6	-21.4	-15.8
8	5.1	-19.4	-14.3
9	6.6	-18.0	-11.4

(年月)

業界の業況

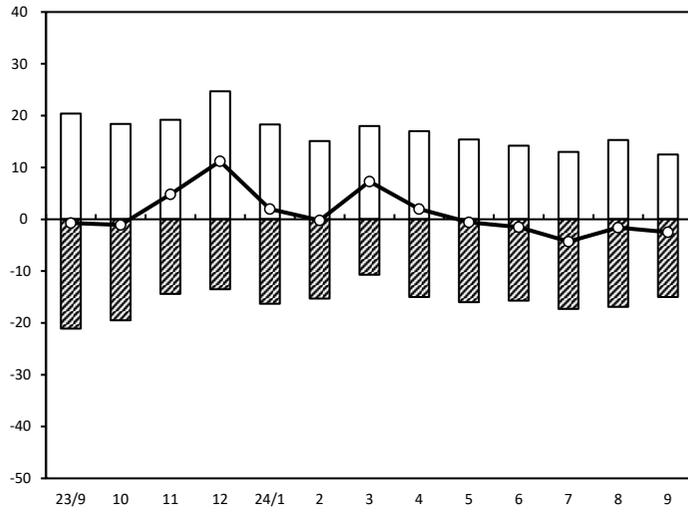


年/月	増加	減少	DI
23/9	7.1	-32.9	-25.8
10	6.9	-27.4	-20.5
11	7.8	-20.9	-13.1
12	7.1	-19.3	-12.2
24/1	7.6	-19.6	-12.0
2	8.3	-14.6	-6.3
3	9.2	-13.5	-4.3
4	7.1	-18.1	-11.0
5	7.1	-22.9	-15.8
6	1.0	-25.5	-24.5
7	7.4	-16.7	-9.3
8	7.4	-17.1	-9.7
9	7.8	-15.0	-7.2

(年月)

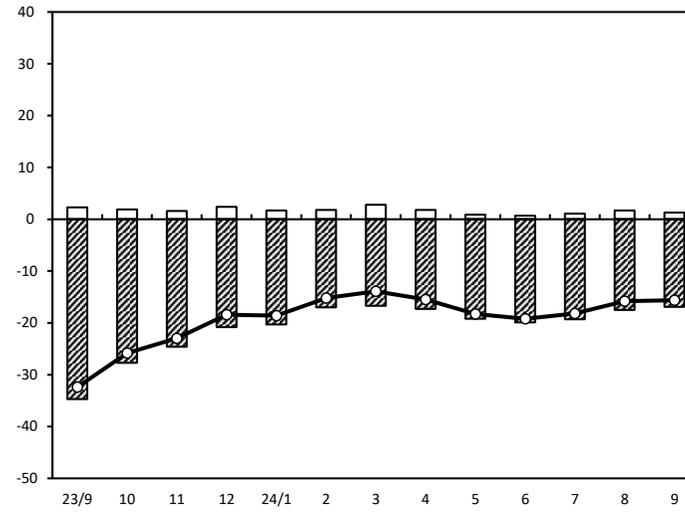
小 売 業(前年同月比)

売上額



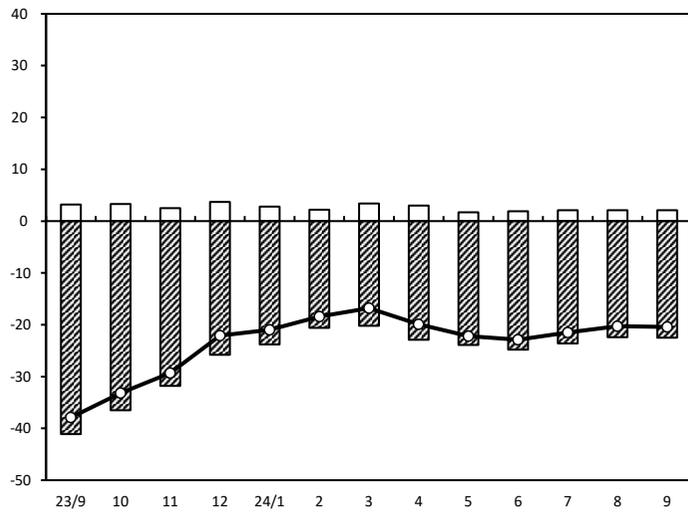
(年月)

資金繰り



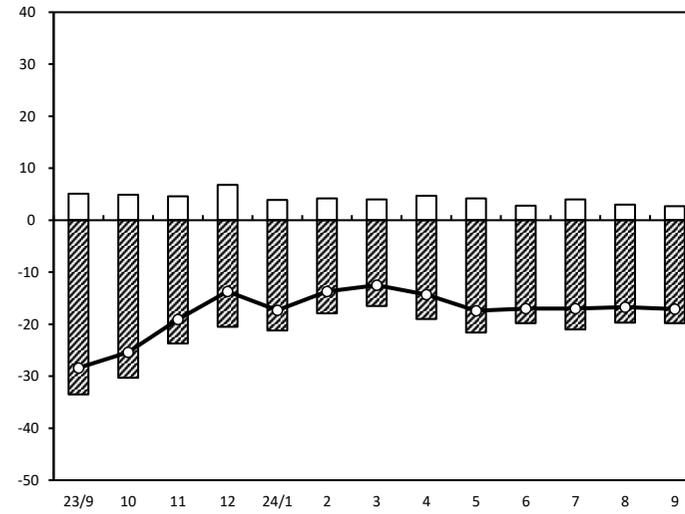
(年月)

採算



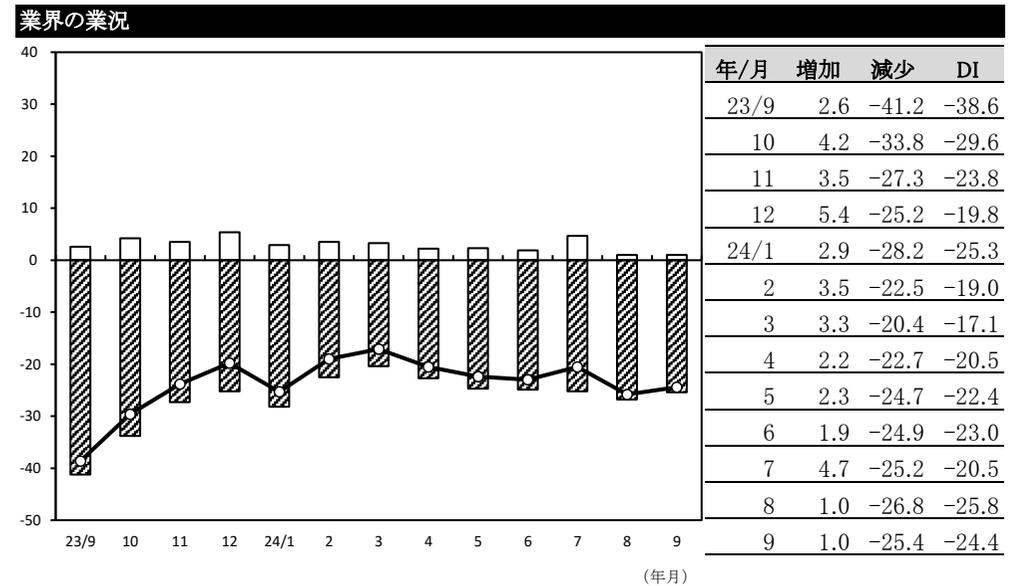
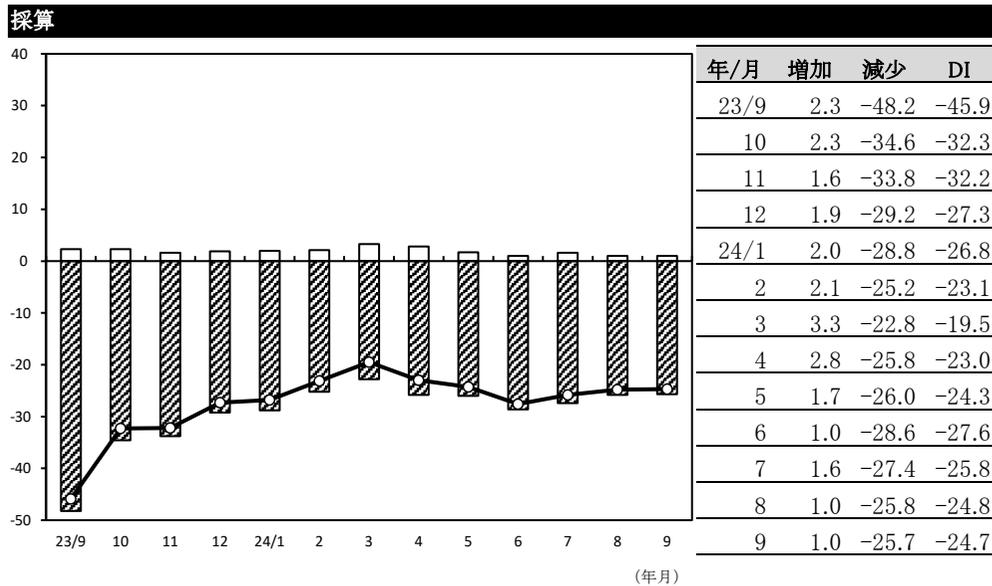
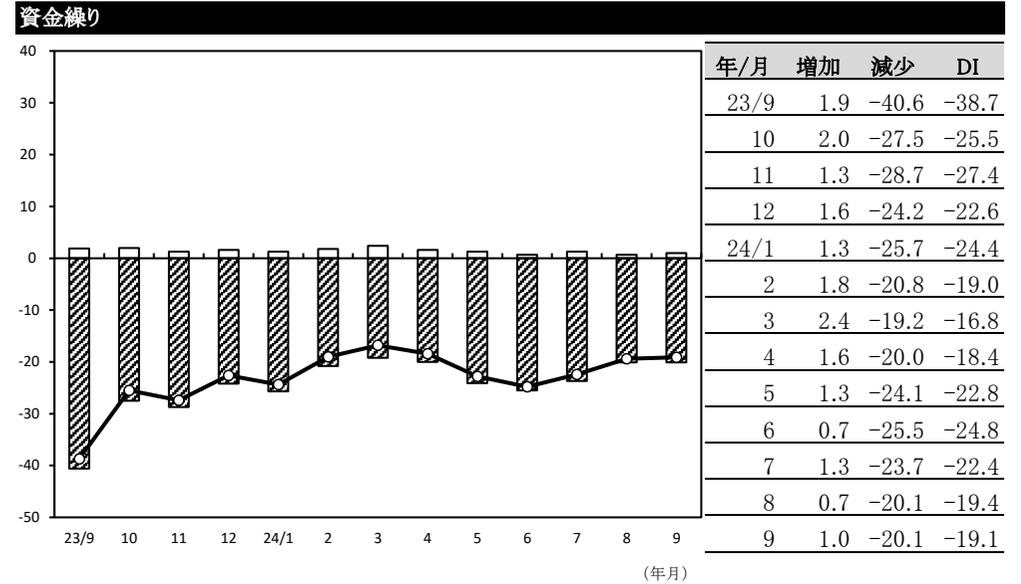
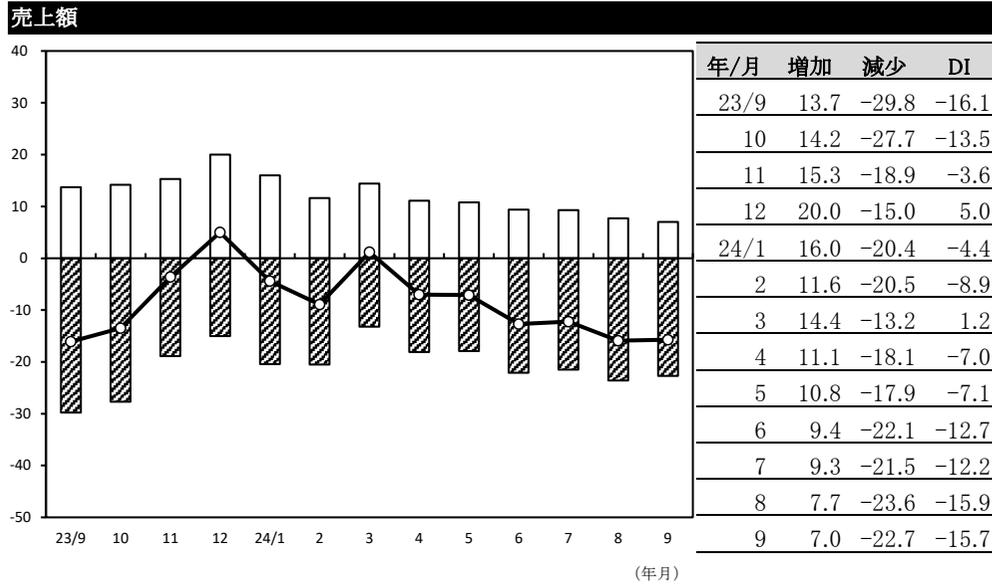
(年月)

業界の業況

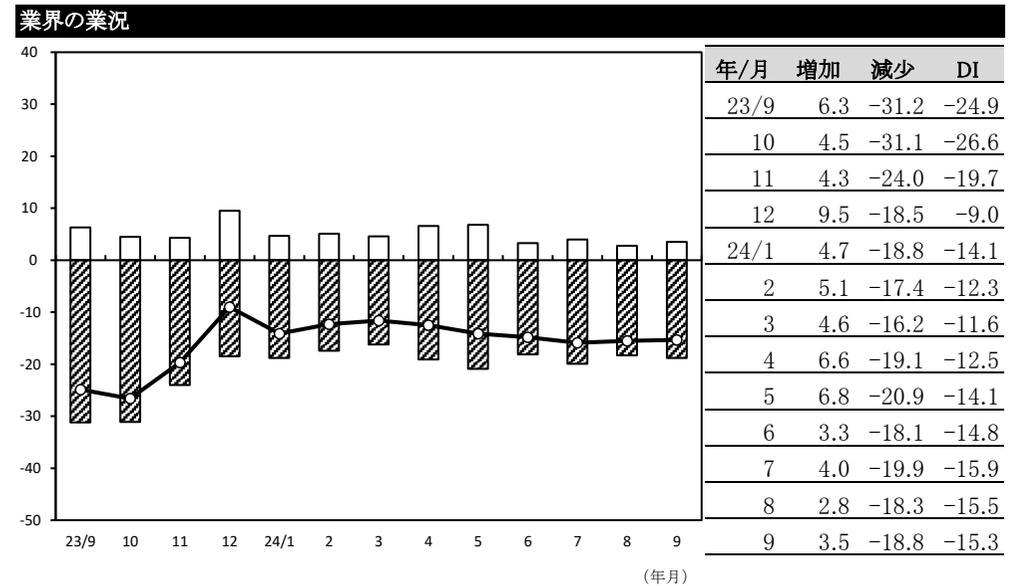
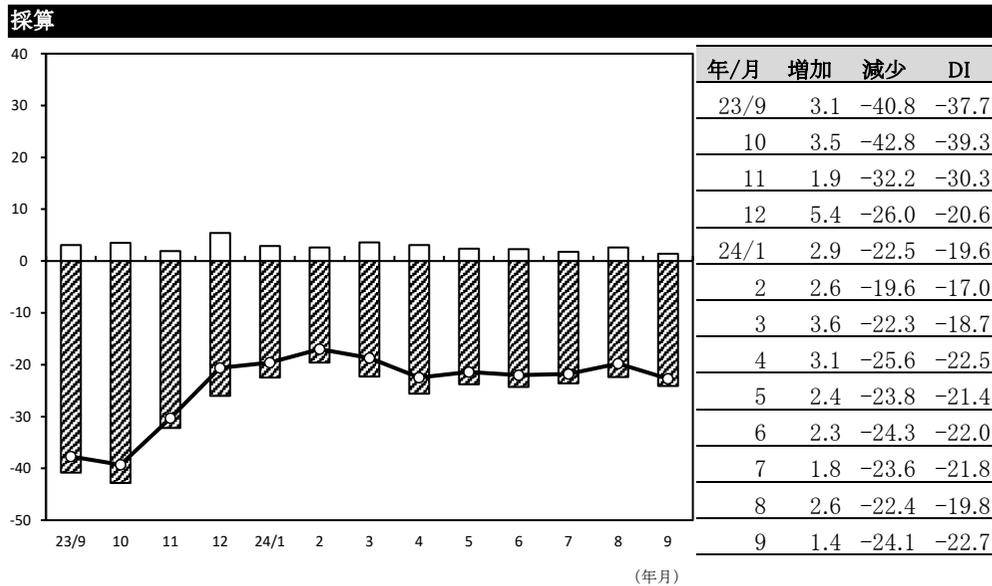
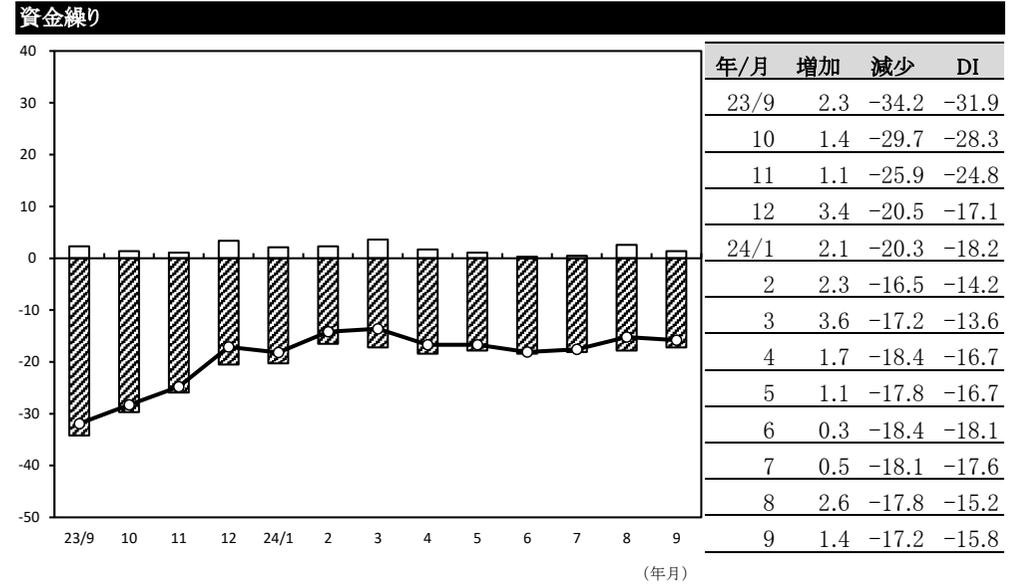
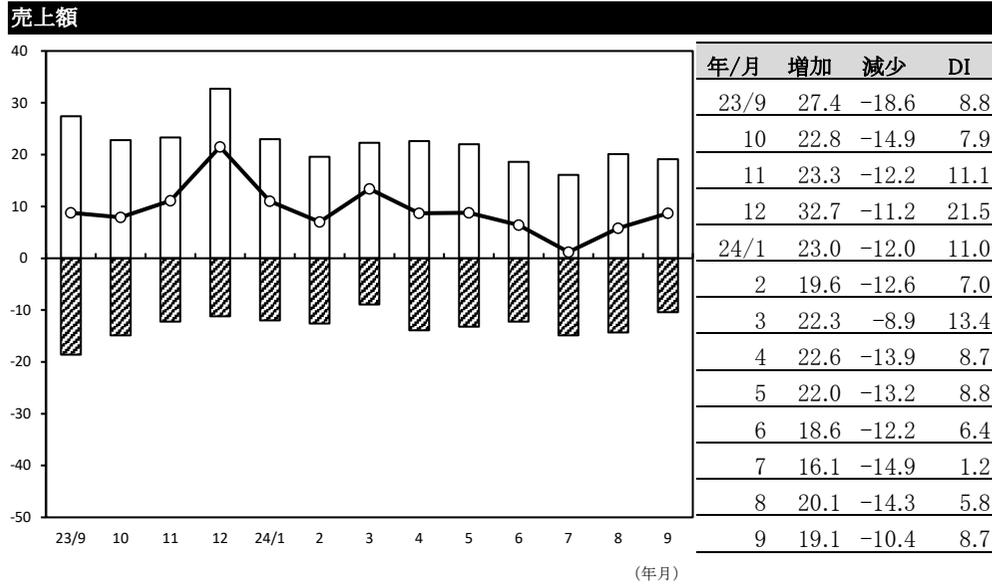


(年月)

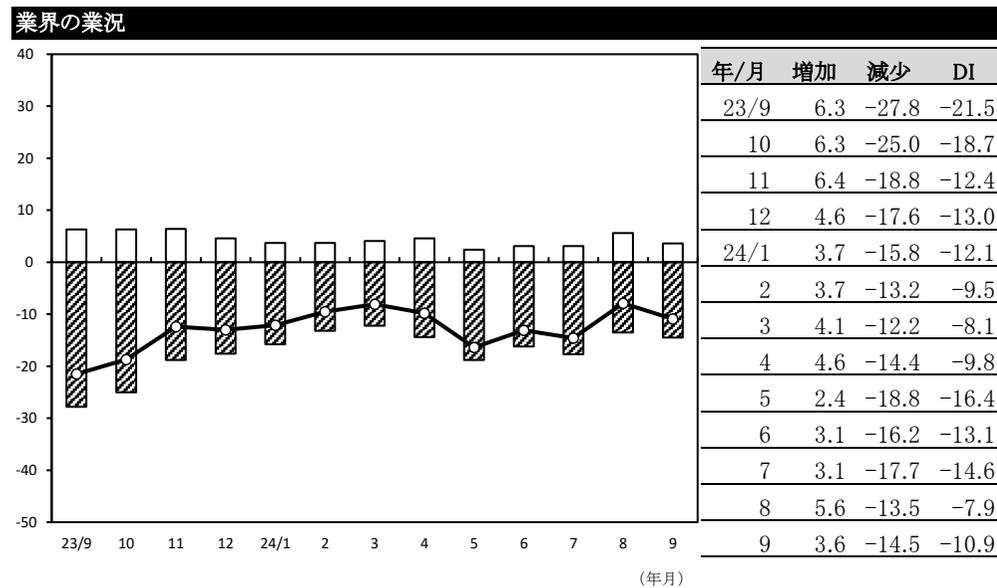
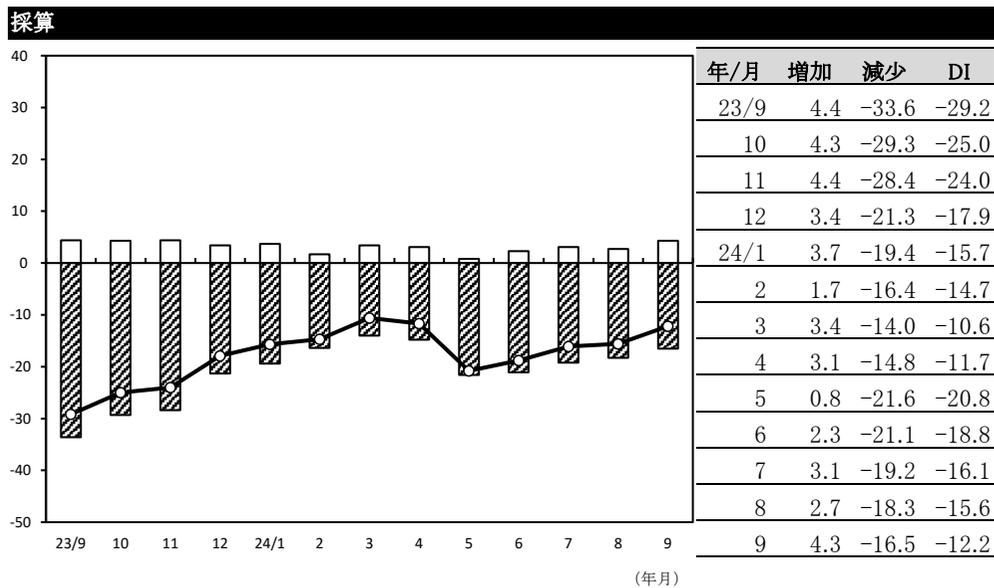
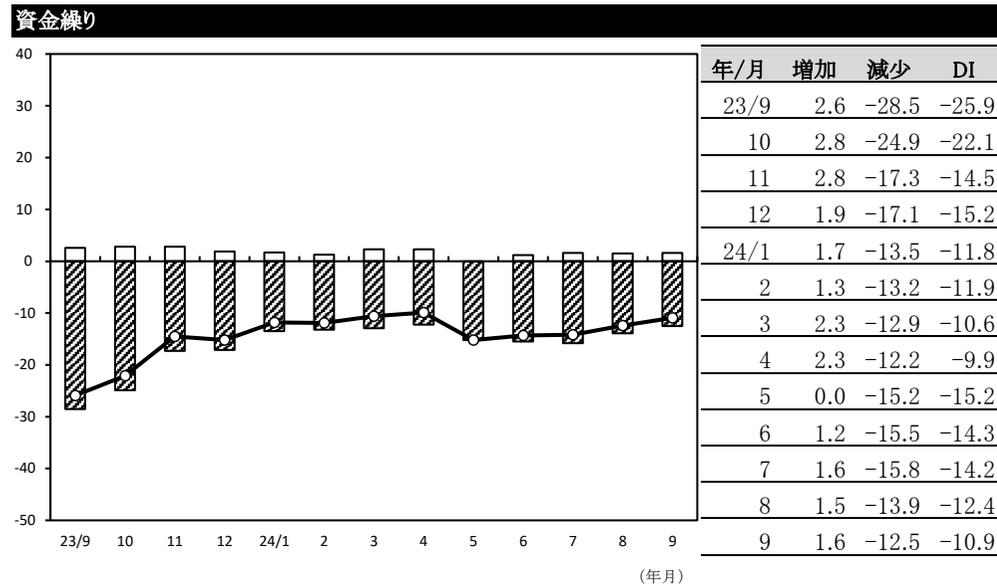
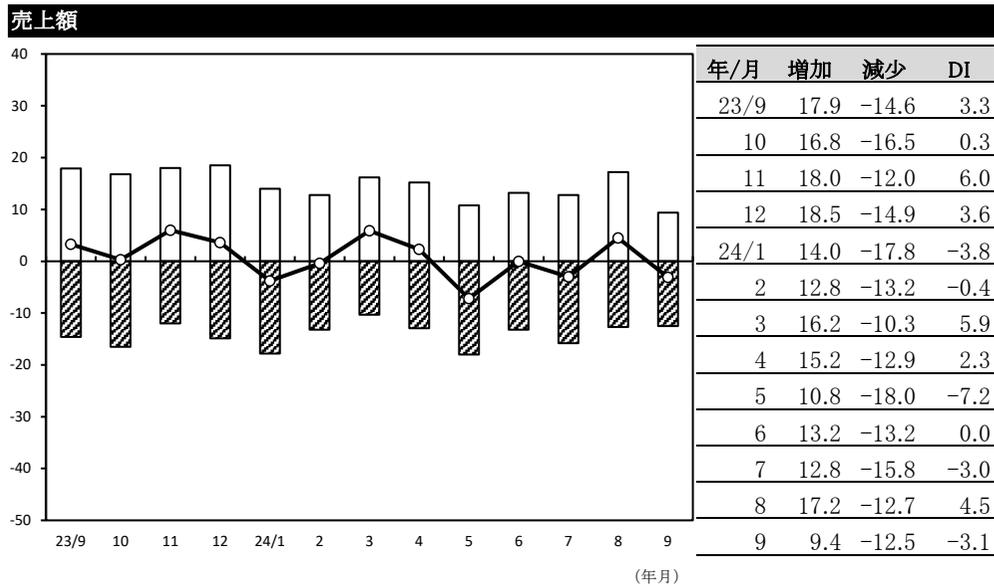
小 売 業 【衣料品】 (前年同月比)



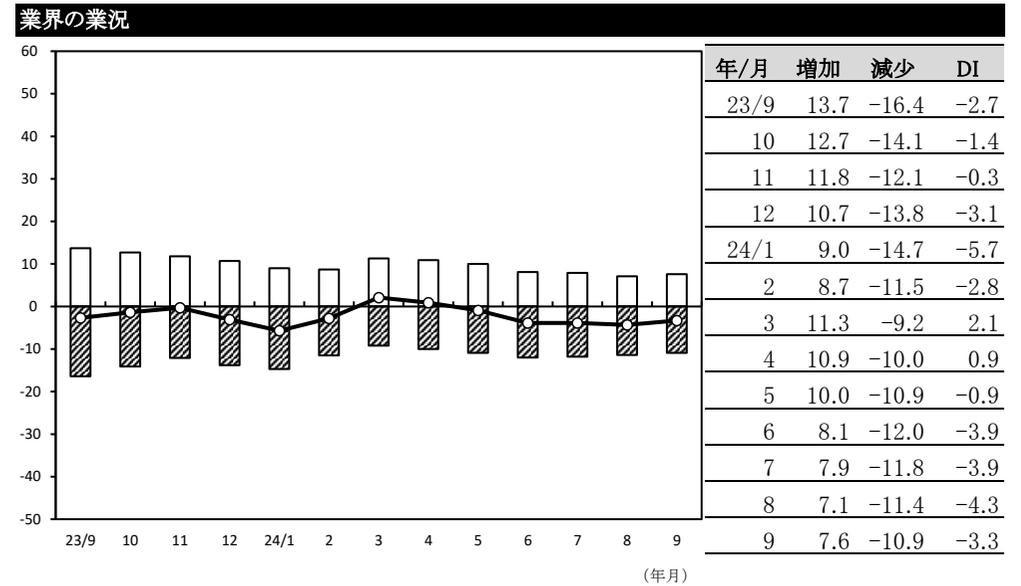
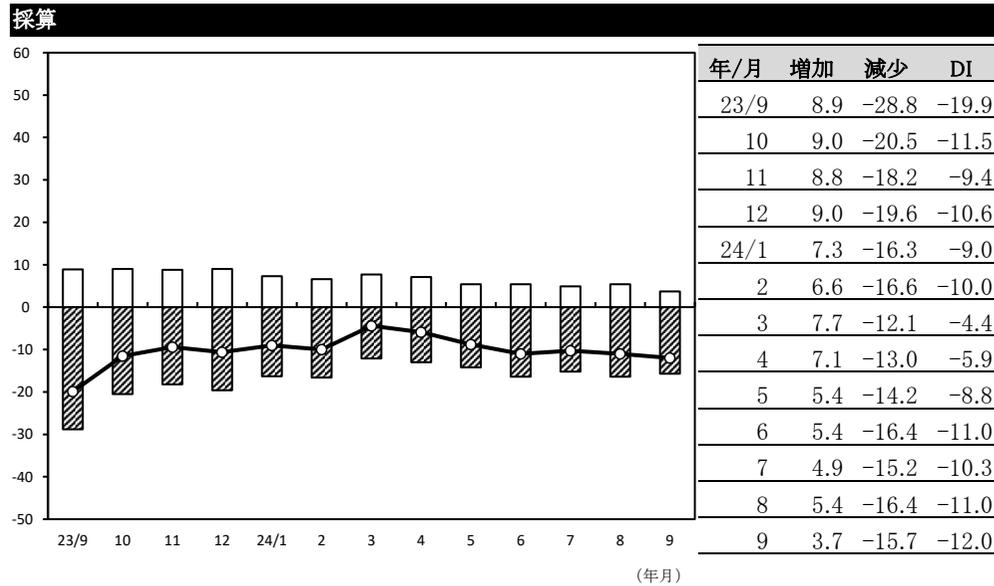
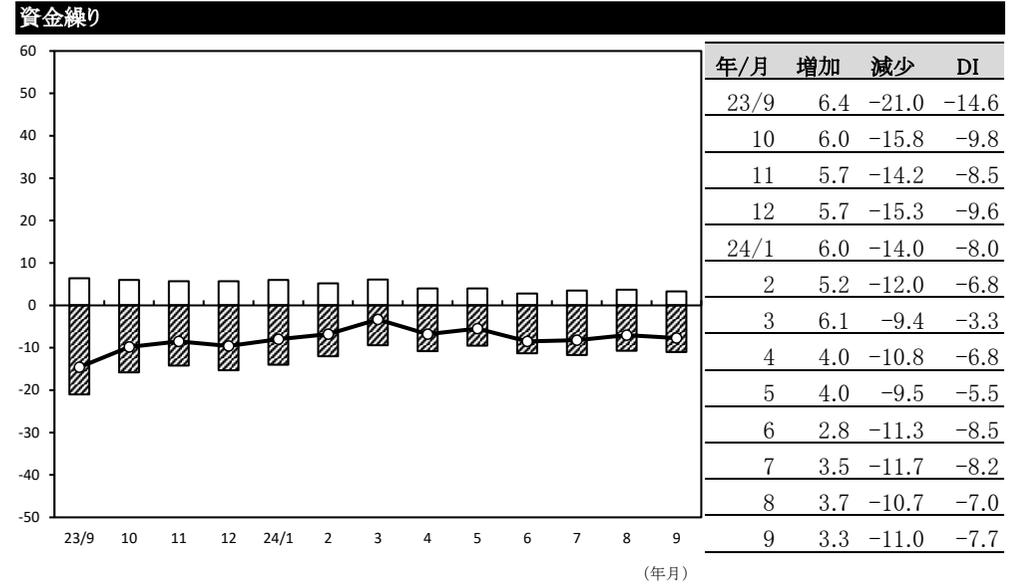
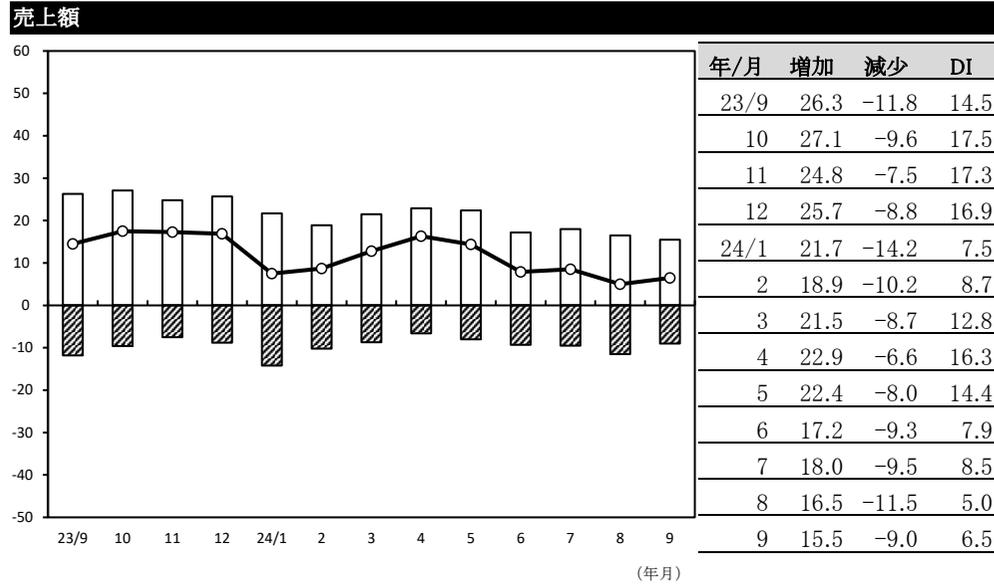
小 売 業 【食料品】 (前年同月比)



小 売 業 【耐久消費財】（前年同月比）

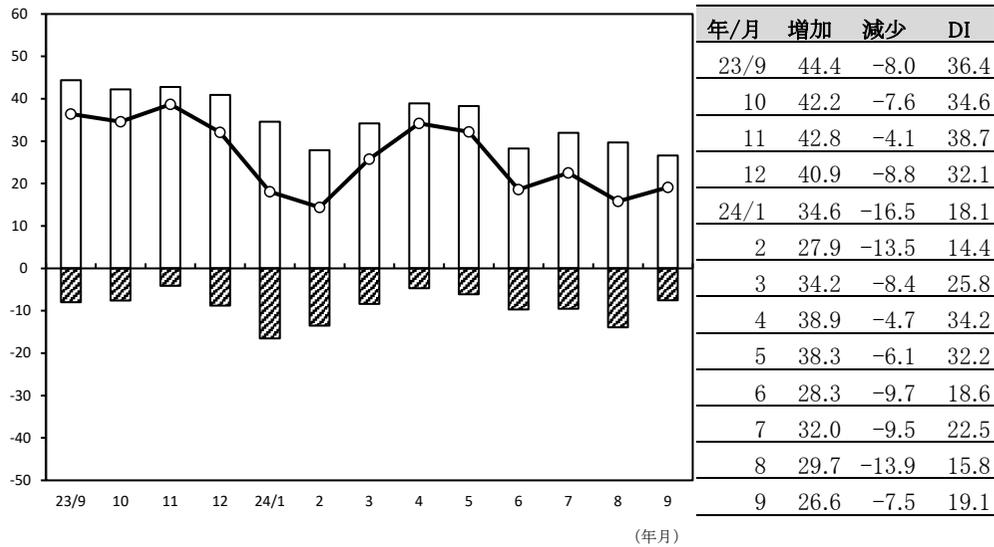


サービス業(前年同月比)

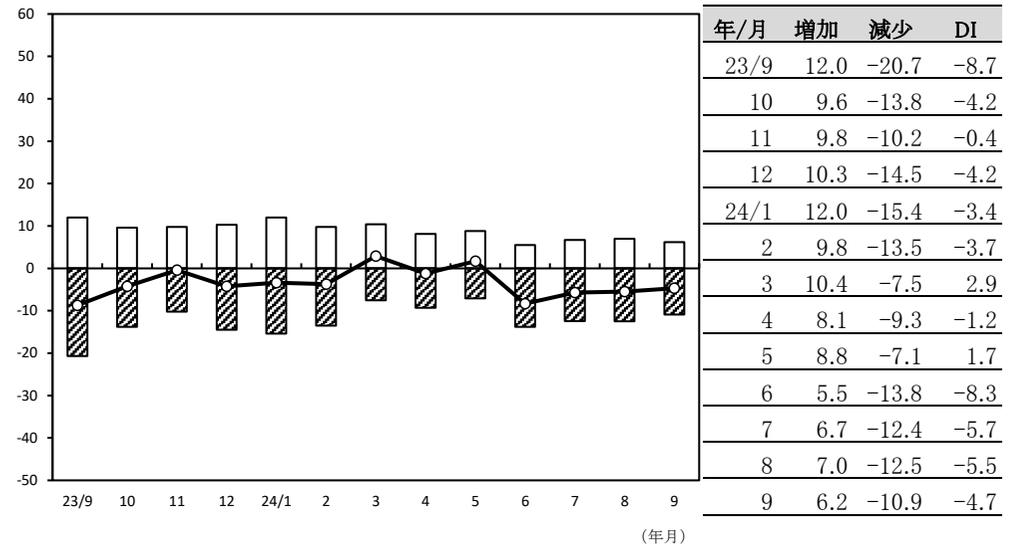


サービス業【旅館】（前年同月比）

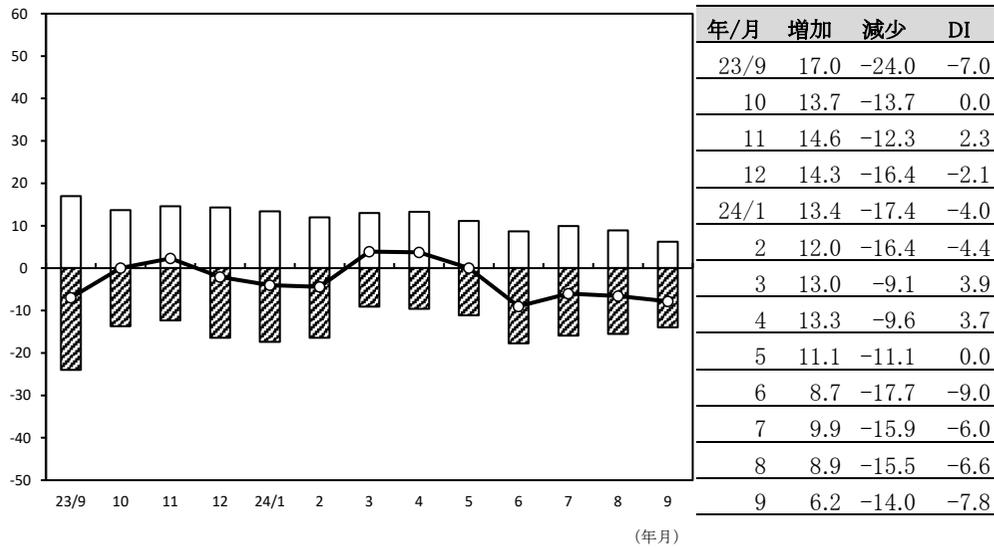
売上額



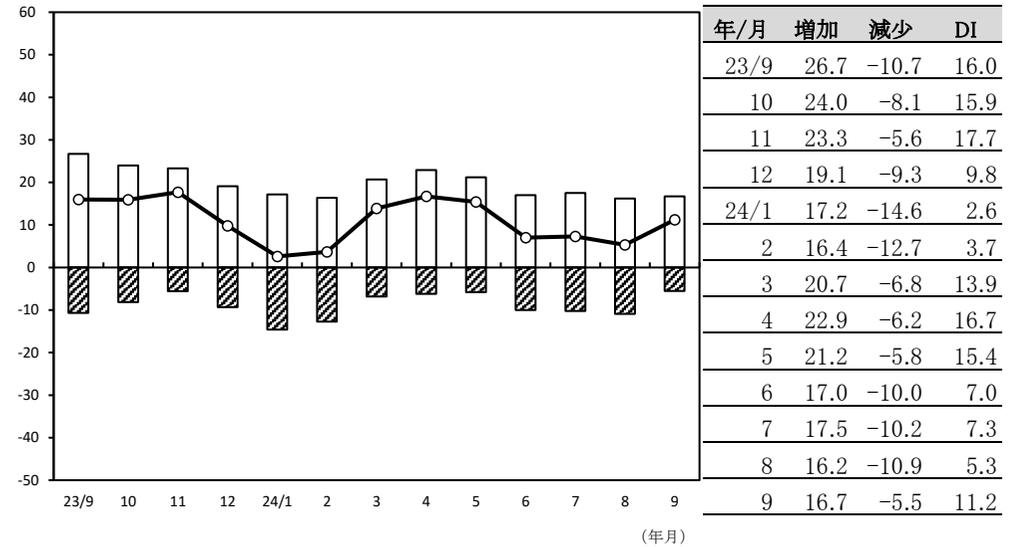
資金繰り



採算

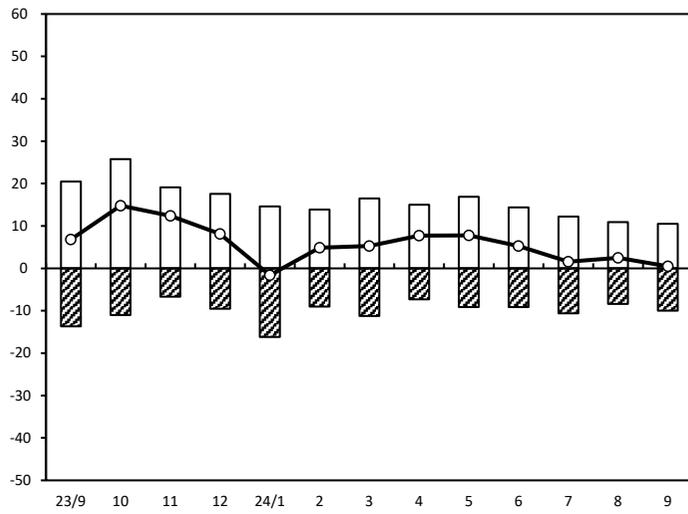


業界の業況



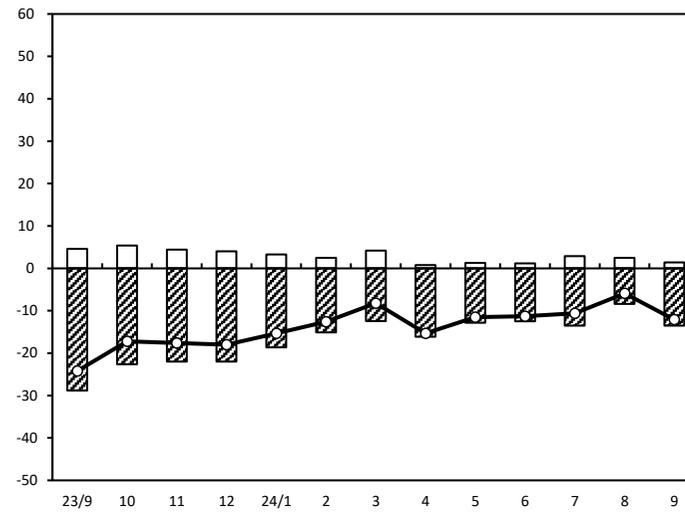
サービス業【クリーニング】（前年同月比）

売上額



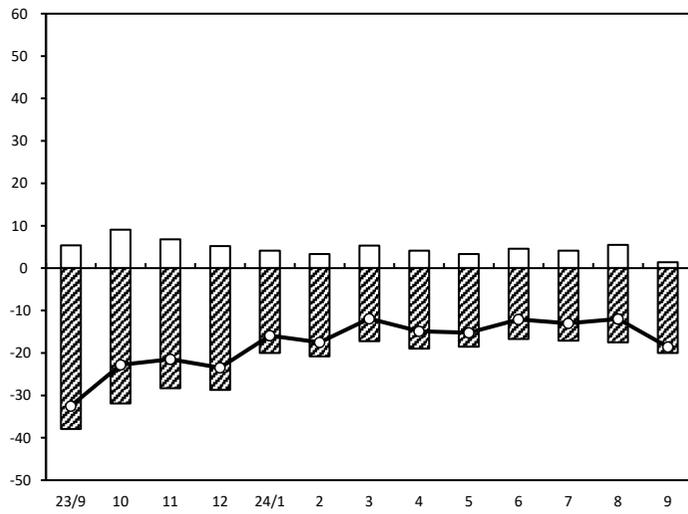
(年月)

資金繰り



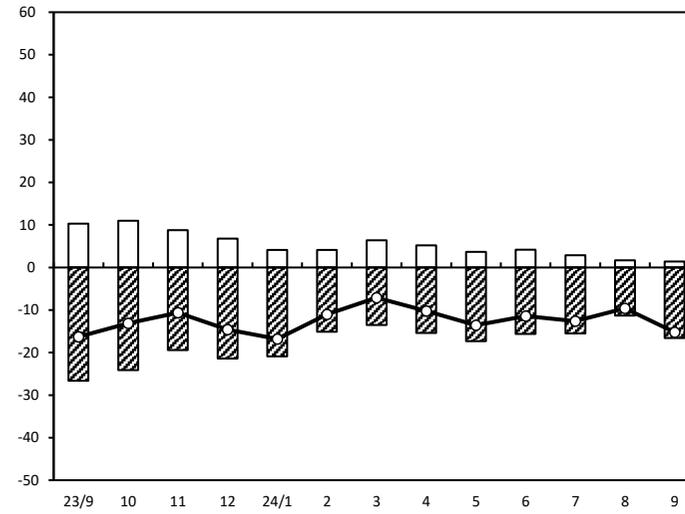
(年月)

採算



(年月)

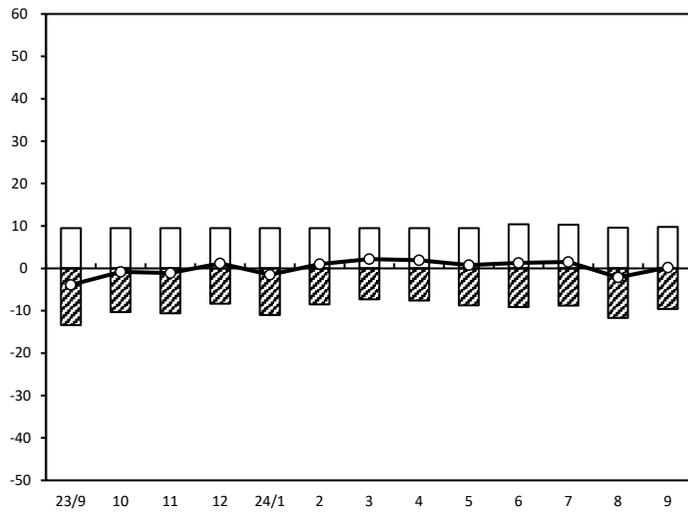
業界の業況



(年月)

サービス業【理・美容】（前年同月比）

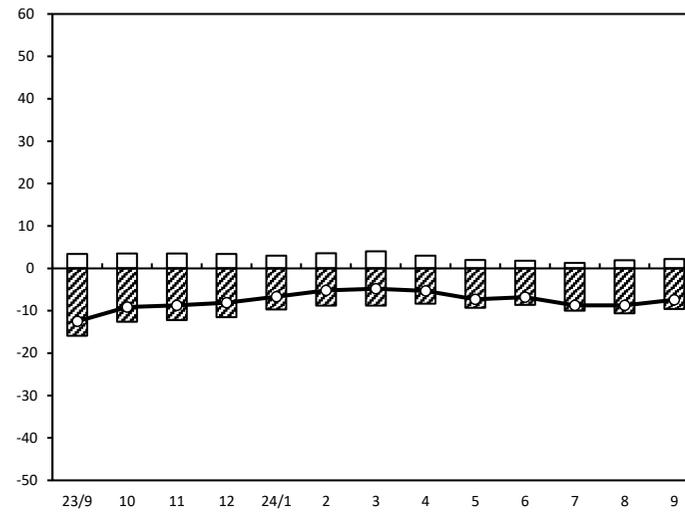
売上額



年/月	増加	減少	DI
23/9	9.5	-13.4	-3.9
10	9.5	-10.3	-0.8
11	9.5	-10.6	-1.1
12	9.5	-8.3	1.2
24/1	9.5	-11.0	-1.5
2	9.5	-8.5	1.0
3	9.5	-7.3	2.2
4	9.5	-7.6	1.9
5	9.5	-8.7	0.8
6	10.4	-9.1	1.3
7	10.3	-8.8	1.5
8	9.6	-11.7	-2.1
9	9.8	-9.6	0.2

(年月)

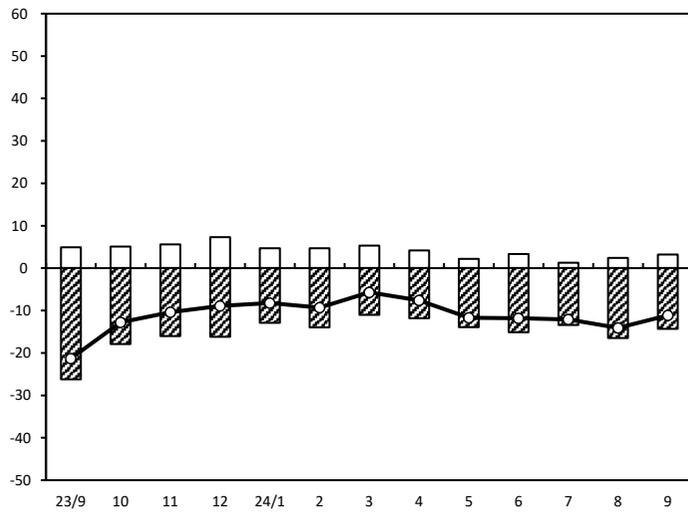
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
23/9	3.4	-15.9	-12.5
10	3.5	-12.6	-9.1
11	3.5	-12.2	-8.7
12	3.4	-11.5	-8.1
24/1	3.0	-9.7	-6.7
2	3.6	-8.8	-5.2
3	4.0	-8.8	-4.8
4	3.0	-8.3	-5.3
5	2.0	-9.3	-7.3
6	1.8	-8.6	-6.8
7	1.3	-10.0	-8.7
8	1.9	-10.6	-8.7
9	2.2	-9.6	-7.4

(年月)

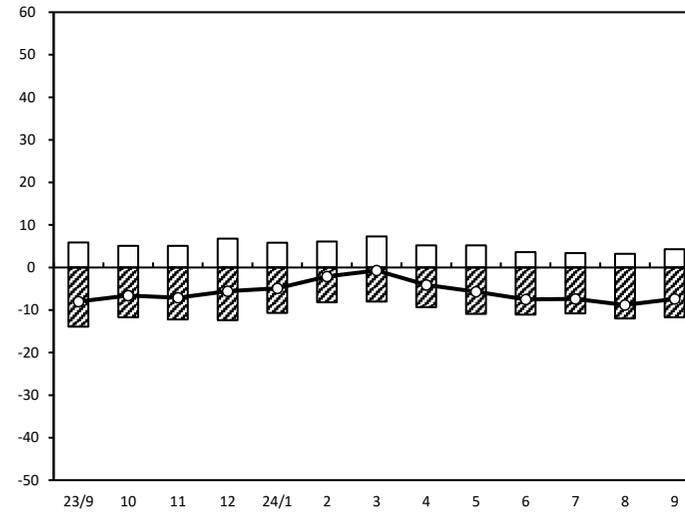
採算



年/月	増加	減少	DI
23/9	4.9	-26.2	-21.3
10	5.1	-17.9	-12.8
11	5.6	-16.0	-10.4
12	7.3	-16.2	-8.9
24/1	4.7	-12.9	-8.2
2	4.7	-14.0	-9.3
3	5.3	-11.0	-5.7
4	4.2	-11.8	-7.6
5	2.2	-13.9	-11.7
6	3.3	-15.1	-11.8
7	1.3	-13.4	-12.1
8	2.4	-16.5	-14.1
9	3.2	-14.3	-11.1

(年月)

業界の業況



年/月	増加	減少	DI
23/9	5.9	-13.9	-8.0
10	5.1	-11.7	-6.6
11	5.1	-12.2	-7.1
12	6.8	-12.4	-5.6
24/1	5.8	-10.7	-4.9
2	6.1	-8.2	-2.1
3	7.3	-8.0	-0.7
4	5.2	-9.3	-4.1
5	5.2	-10.9	-5.7
6	3.6	-11.1	-7.5
7	3.4	-10.8	-7.4
8	3.2	-12.0	-8.8
9	4.3	-11.7	-7.4

(年月)

小規模企業景気動向調査(9月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

各業種全般的にはポジティブに捉えているようだ。観光施設等の入り込みも全般的にプラス。米の収穫期となり全般的に前年並みに推移。当町の経済動向としては比較的安定感がある。但し、電気、ガソリン、各種資材の高騰および高止まりは続いており、販売価格への転嫁、人手不足への対応など課題も多い。

(北海道小平町商工会)

創業に関する問い合わせは依然として多い。昨年までであると副業や趣味の延長線上の開業(特に女性)が多かったが、今年度は融資も伴う少し規模が大きく、自宅を改装してカフェを創業といったものが増えてきている。

(岐阜県笠松町商工会)

市内の観光体験施設では、オーバーツーリズムの影響により他府県に宿泊しつつ、昼間は当市に訪れる外国人観光客が増加傾向である。

(滋賀県栗東市商工会)

まだまだ、原価高騰や人手不足の影響が続いているが、価格転嫁や国・県等の支援策の積極的活用を検討している事業者が多くなってきている。

(沖縄県本部町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

物価高騰と最低賃金の引き上げによる経営状況の悪化を懸念し、人員削減を考えている事業者もあった。また、行政に対し、小規模事業者への負担も考慮し、売り上げ規模と従業員数に応じた助成金制度を設けてほしいとの声も上がっていた。

(青森県野辺地町商工会)

物価高騰の影響もあるが、そもそもの地域の人口が減少していることもあり、来客数の減少等から売上減少に歯止めがかかっていない。街中での消費を増やすため、人を集める政策も考えていかなければならないと思う。

(福島県保原町商工会)

全体的に売上額は横ばいか減少傾向だが、物価高やエネルギー高によるコスト増が、採算や資金繰り悪化にじわじわと影響を及ぼしている印象。今後、秋冬閑散期の需要減退や暖房コスト増加が想定されるため、さらなる業績悪化が懸念される。

(群馬県嬬恋村商工会)

中国、米国経済の後退により、製造業については先行きが不透明との声が多い。小売業、サービス業は物価高による消費者の買い控えがある。

(石川県津幡町商工会)

あらゆる業種の方から人手不足の声を耳にする。加えて、10月に最低賃金が大幅に上昇する背景もあり、人材の確保を不安視している様子がうかがえる。人材の募集にかかる支出(求人広告等の経費)も増大している様子で、その割には支払った額に見合った成果(人材の採用)を得られていない様子。

(静岡県沼津市商工会)

全体的には、人件費単価の高騰が収益を圧迫している。また、人手不足により事業を縮小せざるを得ないケースも出てきている。

(兵庫県佐用町商工会)

景気全般として、飲食業などは昼食需要は堅調である。一方で、夕食需要は減少傾向がつついている。店舗での売上確保は厳しく、外販やイベント出展に注力する企業が増えている。製造業は、取引受注が極端に減少している企業、一方で見積依頼が増えている企業があり二極化状態である。建設業は、公共工事は落ちつきつつある。

(広島県黒瀬商工会)

地域全体において、消費者は物価高騰の影響を受け、地元消費の低迷が一段と進行している。多くの事業者は収益が減少し、厳しい経営環境に直面している状況である。特に、10月からの最低賃金引き上げにより、パート従業員などを雇用する事業者の経営悪化が懸念される。

(長崎県松浦市福鷹商工会)

最低賃金の上昇に不安を抱えており、雇用が難しくなっている。賃金を上げるのではなく、減税を検討してほしい。

(大分県佐伯市番匠商工会)

物価高騰などの影響や、従業員の賃金引き上げなどの対応で営業利益が希薄になっている状況が続き、価格転嫁などの検討をおこなっているが、顧客離れしないか懸念している。建設業は、材料仕入れや固定費は増加傾向にあるが、売上は好調である。しかしながら営業利益はあまり見込めない。

(沖縄県北中城村商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

食料品…企業等の卸取引が3か所減少し、売上が減少した。一方、リニューアルしたネットショップ(直販)では売上が前年同月比160%となっており、個人向けの需要は高まりつつある。繊維工業…官公庁系との取引が増加し、3月まで手一杯の状態。民間からの依頼もあるが供給が間に合わないため断っている。人件費含む経費増加に対応するため、工賃単価を取引条件で重要視している。機械・金属…設計案件は前年同等で推移している。加工案件もバラツキがあるものの平年並みだが、短納期対応が多く工程管理に苦労している。

(秋田県由利本荘市商工会 矢島支所)

価格転嫁が進んでおり、業況は堅調。一方で光熱費などの上昇がマイナス要因。

(東京都昭島市商工会)

仕入れ値に合った価格転換ができてきたことから、売上・利益ともに順調に伸びている。利益も確保しやすくなったことで資金繰りも滞りなく、順調な経営ができていると考えられる。

(三重県伊勢小俣町商工会)

スポーツ大会など県や市町を挙げてのイベントが控えており、関連の受注が増えている。イベントについてはコロナ禍前の頃にほぼ戻った感がある。

(滋賀県湖南市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

製造業全般に関しては、先月同様に仕入単価の上昇が利益を圧迫している状況にある。

(宮城県栗原南部商工会)

価格転嫁しづらい状況で先月同様に採算を圧迫していて、人手不足の状態も続いている。

(福島県田村町商工会)

食料品製造関連の事業者はほぼ、仕入単価、経費が上昇、一部店舗は価格転嫁が上手くいき客数も増えたが、ほとんどの同業種事業者は良くなかったとのこと。部品製造関連の事業者は、売上減少に対し仕入単価が変わらず利益は減少したとのこと。

(栃木県那珂川町商工会)

原材料費の値上げ、設備維持の固定費、加えて最低賃金の値上げなど、あらゆる費用が値上がり傾向である。自社の賃金が最低賃金を元々上回っていても、賃金上昇の流れから少しでも上げなくてはいけなくなる。また、同様の理由から原材料を上げざるを得ない取引先もある。小規模企業には、全て向かい風で何一つ追い風がない。

(神奈川県寒川町商工会)

輸入食料品の価格が上昇しており、特に肉などの輸入食材の値上がり感が顕著です。提供する価格は据え置いているため、使用する食材の種類を代替し、量を減らすなどして原価率を保つ工夫をしているが、賃上げを控えていることもあり、採算の低下が厳しい。また、人材不足について、学生の夏休み期間中は短期の学生アルバイトで対応していたが、再び要員不足が生じ、日々の業務のやりくりで苦慮している。機械金属製造業では、景気の先行きに停滞感があり、設備投資を手控える傾向が見られる。特に、高額な受注が急減している。一方で、少額の受注は定期的に安定しており、悲観的な状況には至っていない。

(愛知県飛島村商工会)

食品製造業では、売り上げはコロナ前まで回復しているところもあるが、原材料や資材の高騰により利益を圧迫している。機械金属製造業では、売り上げは減少傾向にある。しかし、高度な技術、設備を保有しているところでは、売り上げは増加傾向にあるが人材不足により受注に限りがある。

(兵庫県丹波市商工会)

10月以降の最低賃金上昇を危惧する声が多い。非正規雇用を抱える事業所の多くは最低賃金で雇用しているため、人件費による採算悪化を懸念している。

(岡山県阿哲商工会)

仕入価格は上昇傾向。値上げを検討するも、特にBtoB事業者でこまめな値上げが業界上難しい事業者は、今後の価格上昇も踏まえて、いつ、なにを、どれくらい価格を上げるか判断が難しいと苦慮されている声が聞かれた。

(佐賀県武雄市商工会)

食料品製造業関連の事業者は、卸が減っており業界的には低調であるが直販の売上が伸びている。繊維工業関連の事業者は、物価高の影響で、必需品ではない商品は買い控えの対象となり売上が減少傾向にある。機械金属製造業関連の事業者は、受注額が増えて売上は増加しているが、原材料が高騰している状況になっている。

(熊本県阿蘇市商工会)

食料品製造業関連の事業者は、仕入単価の上昇のため苦しい状況が続いている。最低賃金引上げに伴い、価格転嫁をどのように行うかについて悩みが多い。

(鹿児島県南九州市商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

公共工事に支えられ、受注工事高は増加に転じており、稼働状況は良好のようである。それに対し、民間工事受注は建築コストの上昇により相変わらず停滞気味である。また、職人の人手不足は解消されておらず継続課題として捉えている。

(福島県会津美里町商工会)

仕入原価や人件費は高止まりしているが、各種高騰に対する耐性ができており、比較的価格転嫁が進んでいる傾向にある。

(群馬県富士見商工会)

マンションやアパート建設の設備工事業、大手デベロッパーが設備工事を頼める業者が減ってきていることもあり、中小企業に直接受注が来るケースが増えている。材料のコスト等は高騰している。

(埼玉県戸田市商工会)

資材価格の高止まりや専門人材の不足は続いているが、公共工事は堅調である。

(広島県五日市商工会)

新規工事や台風関連の補修工事が増えており、売上は好調である。人手不足や資材価格の高騰も依然として続いているため、コスト管理や生産工程の効率化を行う必要がある。補助金を活用した販路拡大や生産性向上の取組みも増えている。

(長崎県諫早市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

建設業関連の事業者は、工期の長い受注が継続しており、先月同様売上は増加傾向。資材高騰、物価高の影響に対して価格転嫁は徐々に行うことができている。ただし、人手不足等の影響で仕事が後ろ倒しになることもあり、管内業況としては厳しい。

(秋田県かづの商工会)

建設業は、依然として労働力不足と資材価格の高騰に苦しんでいます。特に中小企業への影響は深刻で、少子高齢化や厳しい労働条件がその背景にあります。若年層の建設業への就職希望者は減少し続け、高齢化による熟練労働者の引退も進行中です。さらに、デジタル化の遅れが生産性向上の妨げとなっており、業界全体での対応が急務です。

(茨城県稲敷市商工会)

解体業者や産業廃棄物処分業者は、市の住宅解体補助制度があり住宅解体工事の受注が増加している。しかし、工期が限られており、従業員も少ないことから間に合わず断るケースもある。

(群馬県しづかわ商工会)

建設業は、他の業種と比較すると大きな変動はないと感じている。今後における不安材料としては、人材・工員の確保であり、人材の雇用が確保されていない状態で受注をやむなく断ることも未だ生じており、特に建設業における課題と感じている。

(東京都清瀬商工会)

引き続き人手不足であるため、仕事量はあっても断らざるを得ないケースがでている。無理して受注しても外注費等が高騰しているため、利益が出ない。

(山梨県甲斐市商工会)

建設業は、原材料価格の高騰が大きく影響し、資金繰り難の事業所も多くなっている。引き続き、建材等の値上げの連絡が問屋からあるとのこと。

(静岡県河津町商工会)

公共工事によるところが売上の寄与度が高い建設業であるが、昨今の積算ソフトで計算するとほぼ同じ金額となるため、その他の要素も加味した入札制度にしてほしい。

(京都府木津川市商工会)

やや売上に波が出てき始めている。アフターコロナ需要も一巡し、やや売上が下がっている事業所が多い。また、原材料費及び人件費の値上がりが続いており、担い手不足も深刻化している。技術を確立している事業者については需要が増し、取引先も広がりを見せている。

(岡山県岡山北商工会)

人手不足およびそれに伴う工期不足が課題。省力化に取り組みたいが、業界での機運を鑑みると思うように進め難い現状がある。

(山口県山口県央商工会 秋穂支所)

建設業については、物価高騰の影響によって業況がやや悪化しているほか、大手と中小の間で業界内での差が大きく開いている。

(長崎県西そのぎ商工会)

住宅建築関連の事業者は、相変わらず高水準で受注しているため売り上げが増加している。しかし、原材料や人件費の価格上昇による受注単価の増加であり、採算性に大きな変化は見られない。

(鹿児島県あまみ商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

食料品小売業及び耐久消費財関連の事業者は、物価高騰の影響により仕入価格が上昇するも売上に転嫁したことで、採算等に影響は見られなかった。

(北海道新ひだか町商工会)

家電小売業については、6月～9月のエアコン需要により全体的に売上が伸びたとのこと。今後は人材不足解消のため設備投資や人材確保等で支援を行っていききたい。

(青森県今別町商工会)

衣料品に関しては、地域の伝統行事やイベントが増えたことで売上は伸びている。また、食料品は米を中心に売上を伸ばしている状況が続く。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

米穀業は米不足による影響で、販売価格が昨年に比べるとかなり高い。新米についてはここ数年と比較しても販売は好調である。

(茨城県八千代町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

先月同様、小売業全般が物流コストの上昇、コロナ11波の感染拡大や大雨被害の影響で、やや悪化傾向にある。

(秋田県北秋田市商工会)

食品小売業については、物価高騰及び人件費高騰に耐え、販売価格の据え置きを実施していたが、経営状況悪化に伴い顧客離れもやむなしとして、販売価格の改定を実施せざるを得ない状況である。

(埼玉県東松山市商工会)

全般的に客足が鈍い状況が続いている。天候不順も影響しており、秋冬ものの商材が全く売れず、予測が難しい状況である。

(千葉県香取市商工会)

いずれも物価高の影響を受け仕入単価は上昇傾向。対して価格転嫁や販売数量の増加は難しく、減収につながっている。衣料品は気温が高い日が多く、秋物の動きは非常に鈍い。食料品は米の需要に対して供給量が追いついていない。気温が高い影響で野菜や果物の成長に影響が出ており、地物でも品薄・価格高のものが出てきている。報道により、10月から相当数の商品が値上げされることを知っている顧客によるまとめ買いが見られたが、昨年と同様の環境にあり売上に大きな変化は見られない。耐久消費財は買い控え傾向である一方、修理依頼は多い。

(石川県宝達志水町商工会)

<衣料品>相変わらずの人口減少、消費低迷の動きが止まらず低調に推移している。<食料品>売上は、前年より減少傾向であり、利益確保が厳しい状態である。<耐久消費財>前年同月比変動なしだが、悪い状況に変わりはない。

(静岡県川根本町商工会)

小売業者は、全体的に顧客の高齢化や物価高による消費の冷え込みが原因で、売上が減少傾向にある。ただし、食品小売業者については、個人消費は減少しているものの、コロナが治まったことで町内の催しなどが再開され大口の注文は回復傾向にある。

(京都府福知山市商工会)

衣料品小売業は、残暑が厳しく季節に合った商品(秋物)の売れ行きが悪い。食料品小売業は、町内外の大手量販店に集中しており、地域事業者への来店は減少している。耐久消費財は、一部メーカーの車両供給が滞っていることもあり、車両販売が落ちている。

(兵庫県新温泉町商工会)

衣料品では、前年と比較して気温が高く季節が変わらず衣料品が動いていない。食料品では、仕入れ価格の値上がり、最低賃金の上昇でコスト増加が継続。食料品の値上げによる買い控えも生じて、業況は悪化している。耐久消費財では、業界の業況は変わらないが、車検や修理のタイミングで自社は売上減となった。

(鳥取県大山町商工会)

衣料品小売業は、コロナ禍が落ち着いても客足は戻っていない。ファストファッション、ショッピングモール、通信販売の影響は、高齢者向け衣料品にも及んでいるため、今後の回復の兆しが見えない状況であり、仕入商品の見直しや在庫圧縮等で事業のコンパクト化を図っている。

(福岡県志免町商工会)

衣料品小売業は、9月になっても気温が下がらず、衣替えの時期が遅れており売上が伸びなかった。食料品小売業は、原材料費の高騰及び価格転嫁の影響で売上は変動がないものの、お客さんの数が減ったというところもあった。進学や就職による若い世代の転出により、注文数が減っている事業所もあった。自動車販売に関しては、納入の遅れが落ち着いてきたため昨年よりは売上が立っているが、依然として価格は高いため消費者が購入を慎重にする恐れがある。

(佐賀県佐賀市南商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

コロナ禍が解消された反動により観光客が増加している。また、外国人観光客が増えている。

(茨城県大洗町商工会)

宿泊業者において、シルバーウィークの効果は去年よりも大きく、来客数が増加したことから売上が増加している。

(新潟県朝日商工会)

宿泊業関連の事業者の一部は、お客さんの増加等のため、昨年に比べて夏季の売上額が2~3割ほど増加した。

(長野県小谷村商工会)

旅館・宿泊業において、9月は天候も良く台風の影響も少なかったため、旅行客数が安定していた。10月からの秋シーズンの予約も順調であり、好調であるとのコメントがあった。理美容業においても、外出しやすい気候が近づくにつれて来店客数の増加が見られた。

(岡山県真庭商工会)

夏の観光シーズンの高い需要を獲得できたことにより、一部店舗では売上額が増加傾向にある。物価高騰や人件費高騰など経費負担も増加している一方で、価格改定を実施しており、採算維持できている事業所もある。台風接近が連休に重なり、宿泊業などでキャンセルもあったが、平日のビジネス利用などが多く、稼働率は高く推移している。

(鹿児島県知名町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

当地域における宿泊業は民宿がメインであり、当期の対象は合宿客となる。コロナ明けから年々客足は戻りつつあるものの、コロナ前と比較すると大きく減少しており、仕入価格の上昇も採算悪化の要因となっている。

(千葉県南房総市内房商工会)

宿泊業については、昨年や今春は市の宿泊料補助制度があったがそれがなくなったこと、また今年も観光庁の補助金を受けて大規模改修工事を行っている宿泊施設が多く営業を縮小していること等により、売上が減少している。ただ、冬季のインバウンド客を受け入れている宿泊施設は、既に8割以上予約で埋まっているところも散見され、見通しは悪くない。理美容業は、高齢化・人口減少に伴う客数の減少は地元客向け小売業と同様だが、サービス提供単価の引き上げ幅を抑えているため、採算は悪化傾向が続いている。

(新潟県妙高市商工会)

クリーニング業者について、9月は衣替えで個人顧客を中心に一定以上の需要があったが、クールビズなどの影響もあって数年前と比較すると需要は減少傾向にある。理美容業者について、近隣地域の顧客は高齢化しており介護施設等への入居などで需要が減少する例もあることから、新規顧客の開拓や出張サービスも検討している。

(福井県福井東商工会)

宿泊業においては、仕入価格や光熱費の高騰がひどく、うまく価格転嫁ができていないこともあり収益が圧迫されている。上昇し続ける最低賃金への対応も大変。廃業することも考えなければならないが、コロナ禍に融資も受けているためやめるにやめられない現状である。

(岐阜県高山西商工会)

宿泊業については、コロナ感染症以降、部屋の使用人数を減らしているため、満室でも売上は伸びない。洗濯業については、燃料費の高騰の影響が大きい。理美容業については、毎日暑いので、カットのお客は増えているが、値の張る毛染めやパーマが少ない。事業主も高齢になってきているが、お得意様が高齢になり、おしゃれに気を使わなくなってきたことで、来店サイクルが長くなっており売上が減少傾向にある。

(静岡県伊豆市商工会)

旅館業においては、2度の3連休が観光レジャーをけん引し、連泊での滞在者が目立った。客単価が上がっているほか、堅調なインバウンド需要も重なり、売上は前年同期と比べて上向いている。その一方、人件費やエネルギー、原材料費の高騰などが影響し、採算が悪化している先も見られる。洗濯業においては、物価高騰により、個人客のクリーニング需要の減少が見られる。資材、燃料費の高騰もあり、業況の厳しさは変わらない。理美容業においては、夏休みや帰省シーズンを終え、節約意識が強まったのか顧客単価は減少。残暑が厳しく秋仕様のカラー需要も足踏みしている中、ネイル需要は安定している一面もある。

(鳥取県鳥取市西商工会)

旅館・宿泊所関連の事業者は、ほとんどの野菜の価格が従来に比べ1.5~2倍に高騰しているなど仕入単価が上昇している一方、宿泊の基本料金を値上げすれば宿泊件数に大きな影響がある為、価格転嫁ができていないところも多い。一方で好調であるところは、サービスの質の向上や幅の拡大に取り組むことで、客単価を上げるなどの工夫をしている。

(佐賀県唐津上場商工会 経営支援センター)

クリーニング業については、洗剤、溶剤等価格高騰が続いている。価格転嫁も思うようにできず、採算が悪化傾向である。理美容業については、シャンプー等仕入れ価格が上昇。価格改定を行い、採算は前年と変化なし。客数は一定である。

(鹿児島県鶴の町商工会 野田支所)